



DAIHATSU

01999-B2650

MOVE

取扱説明書(抜粋版)

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。

ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

iPhone 用



App Store
からダウンロード

Android™ 用



Google Play
で手に入れよう

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を抜粋した取扱説明書です。

基本的な操作は、別冊の「クイックガイド」に記載しています。

さらに詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。

お車に乗られる際には、別冊の「クイックガイド」、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も併せてお読みください。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式でご提供しています。

取扱説明書の提供ページで「MOVE」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm>

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。

ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ご愛車のために

お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。

- 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
- 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
- ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

本書の内容について

- お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 計器の見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

お車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

知っておいていただきたいこと

不正改造について

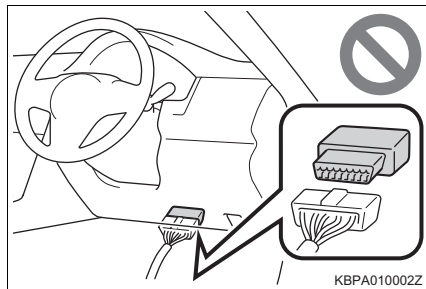
- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機の取り付け・取り外し
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては P. 4 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。ダイハツ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してダイハツは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI※ コンピューター
- スマートアシスト
- VSC
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※ “EFI” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



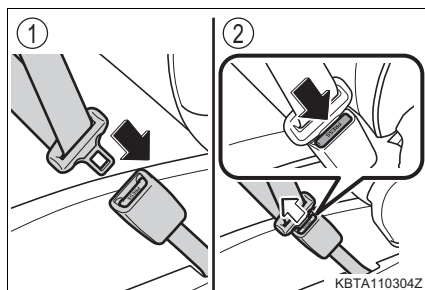
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

⇨: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



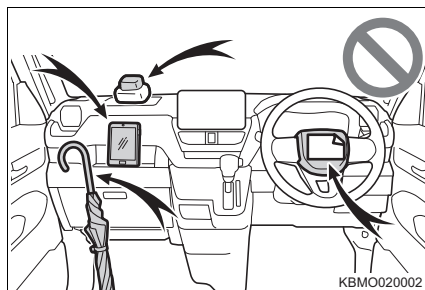
➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません”

“このようにしないでください”

“このようなことを起こさないでください”という意味です。

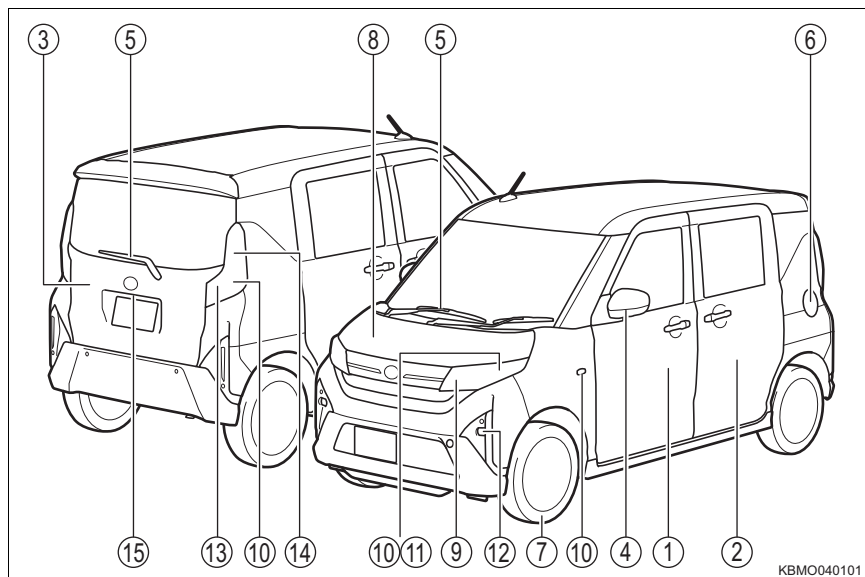


知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① ドア	P. 58
施錠／解錠	P. 56, 58
ドアガラスの開閉	
キーでの施錠／解錠	P. 59, 215
警告灯★・警告メッセージ★	P. 178, 184
② スライドドア	P. 60
施錠／解錠	P. 60
ドアガラスの開閉	
スライドドアの開閉	
パワースライドドアの開閉★	
警告灯★・警告メッセージ★	P. 178, 184
③ バックドア	P. 65
施錠／解錠	P. 56, 65
警告灯★・警告メッセージ★	P. 178, 184

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

④ ドアミラー	P. 70
鏡面の角度調整	
ミラーの格納	
曇りを取る (ミラーヒーター)★	
⑤ ワイパー	P. 86, 87
冬季の注意	
ワイパーゴムの交換	
⑥ 給油口	P. 87
給油方法	
燃料の種類・燃料タンク容量	P. 222
⑦ タイヤ	P. 157
サイズ・空気圧	P. 225
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 146
点検・ローテーション	P. 157
パンク時の対処	P. 205
⑧ ボンネット	P. 156
開け方	
エンジンオイル	P. 222
オーバーヒート時の対処	P. 218

走行にかかわる外装のランプバルブ

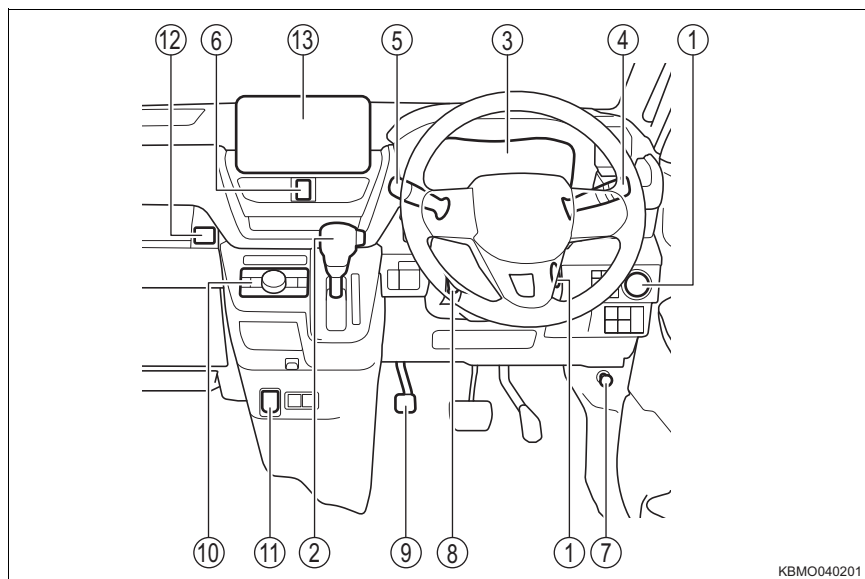
(交換要領：P. 166, ワット数：P. 225)

⑨ ヘッドランプ	P. 84
⑩ 方向指示灯	P. 81
⑪ 車幅灯	P. 84
⑫ フロントフォグランプ★	
⑬ 後退灯	
シフトポジションを R にする	P. 80
⑭ 尾灯	P. 84
⑮ 番号灯	P. 84

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル



KBMO040201

- ① エンジンスイッチ P. 77, 78
 - エンジンの始動・モード切り替え P. 77, 78
 - エンジンの緊急停止 P. 175
 - エンジンが始動できないときの対処 P. 214
 - 警告灯★・警告メッセージ★ P. 178, 184
- ② シフトレバー P. 80
 - シフトポジションの切り替え P. 80
 - けん引時の注意 P. 177
 - シフトレバーが動かないときの対処

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

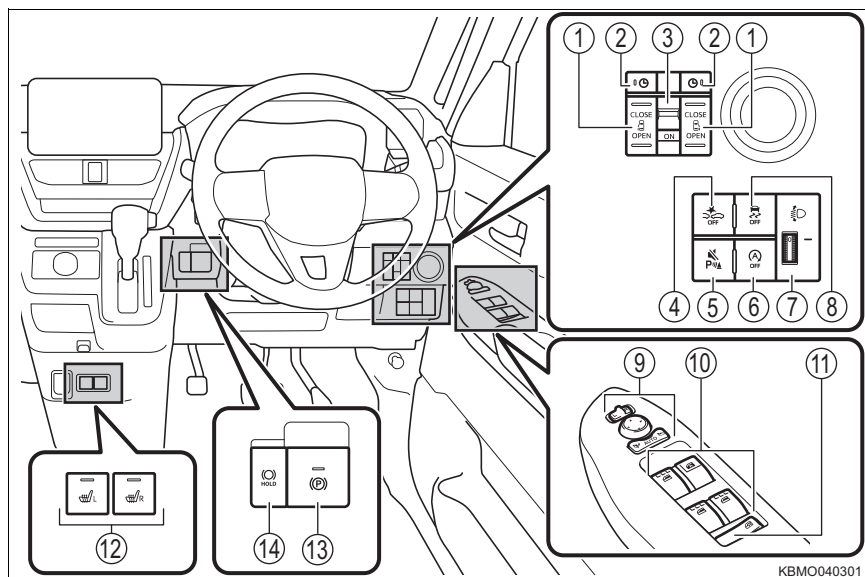
③	メーター	P. 48, 49
	見方・明るさの調整	
	警告灯／表示灯	P. 42
	警告灯点灯時の対処	P. 178
	マルチインフォメーションディスプレイ★	P. 49
	TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★	P. 51
	表示内容	P. 49, 51
	警告メッセージ表示時の対処★	P. 184
④	方向指示レバー	P. 81
	ランプスイッチ	P. 84
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など	P. 84
	フロントフォグランプ★	
⑤	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 86, 87
	使い方	P. 86, 87
	ウォッシャー液の補充	P. 157
⑥	非常点滅灯スイッチ	
⑦	ボンネット解除レバー	
⑧	チルトステアリング★	P. 70
⑨	パーキングブレーキ★	P. 81
	かける・解除する	P. 81
	冬季の注意	P. 146
	警告ブザー	P. 46
⑩	エアコン	P. 148, 149
	操作方法	
	リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	
⑪	アクセサリーソケット	
⑫	USB ソケット★	P. 153
⑬	オーディオ★※	

※ オーディオに付属の取扱説明書を参照してください。

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ類

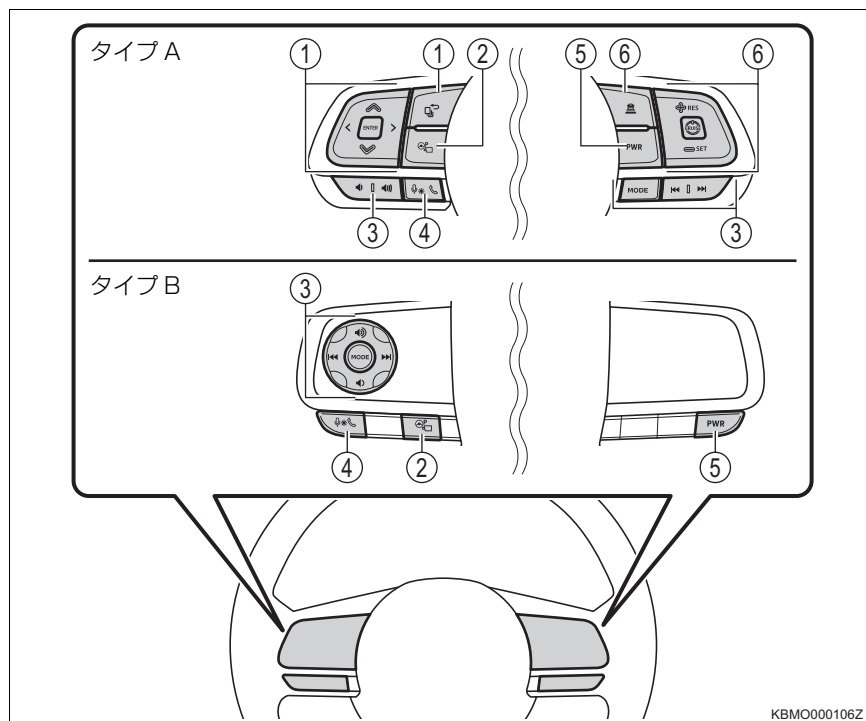


- ① パワースライドドアスイッチ★
- ② ウェルカムオープン予約スイッチ★
- ③ パワースライドドアメインスイッチ★
- ④ スマートアシスト OFF スイッチP. 91
- ⑤ コーナーセンサブザー OFF スイッチ
- ⑥ eco IDLE OFF スイッチ
- ⑦ 手動光軸調整ダイヤル★
- ⑧ VSC・TRC OFF スイッチ
- ⑨ ドアミラースイッチ
- ⑩ パワーウィンドウスイッチ
- ⑪ ウィンドウロックスイッチP. 71
- ⑫ シートヒータースイッチ★

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

⑬ パーキングブレーキスイッチ★	P. 82
かける・解除する	P. 82
冬季の注意	
警告ブザー・警告メッセージ	P. 46, 186
⑭ オートブレーキホールドスイッチ★	

ステアリングスイッチ



KBMO000106Z

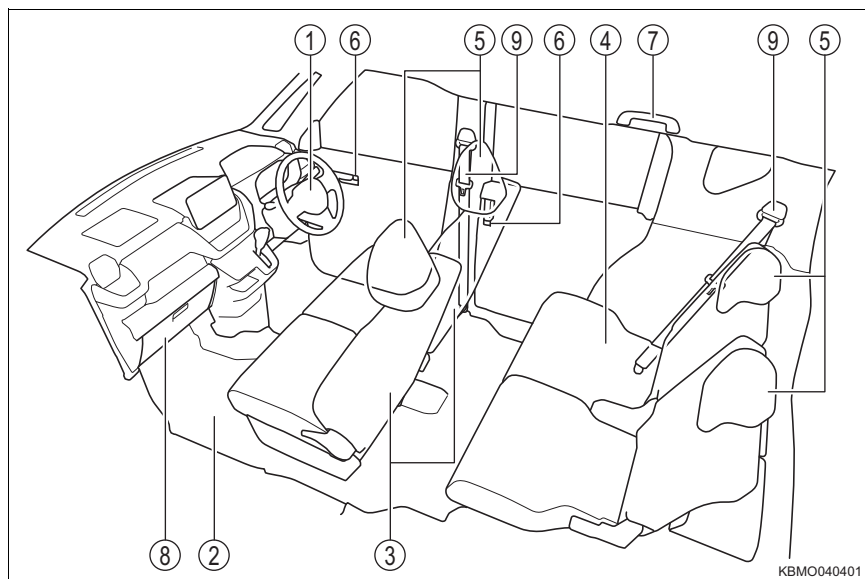
ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

- ① メーター操作スイッチ★
- ② カメラ／パーキングアシストスイッチ★ P. 138
- ③ オーディオ操作スイッチ★※
- ④ トーク／電話スイッチ★※
- ⑤ D assist 切替ステアリングスイッチ
- ⑥ 全車速追従機能付 ACC 操作スイッチ★ P. 119

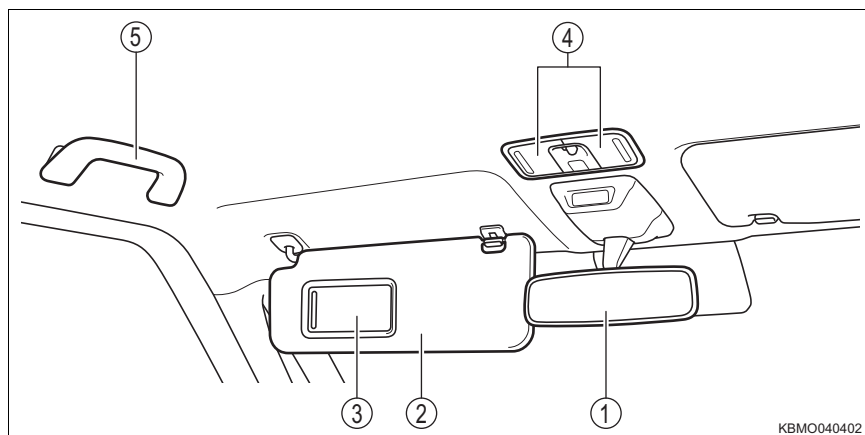
※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

室内



- ① SRS エアバッグ P. 21
- ② フロアマット P. 16
- ③ フロントシート P. 66
- ④ リヤシート P. 67
- ⑤ ヘッドレスト P. 67
- ⑥ ロックレバー P. 59
- ⑦ 格納式アシストグリップ P. 153
- ⑧ グローブボックス
- ⑨ シートベルト P. 18



KBMO040402

- ① インナーミラー P. 70
- ② サンバイザー※ P. 152
- ③ バニティミラー
- ④ フロントパーソナルランプ
- ⑤ 格納式アシストグリップ P. 153

※やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 26)



ABTF000109Z

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	16
安全なドライブのために	17
シートベルト	18
SRS エアバッグ	21
排気ガスに対する注意	23

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	24
チャイルドシート	24

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	37
セキュリティアラーム	38

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

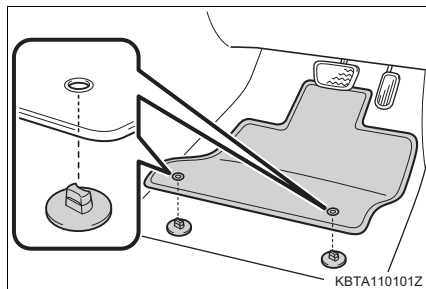
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

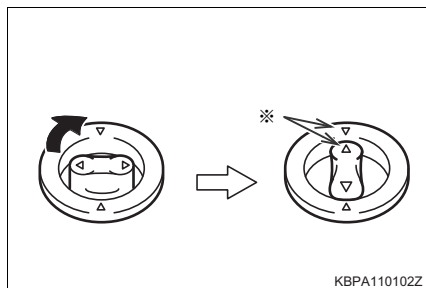
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

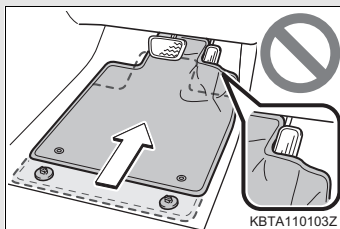
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

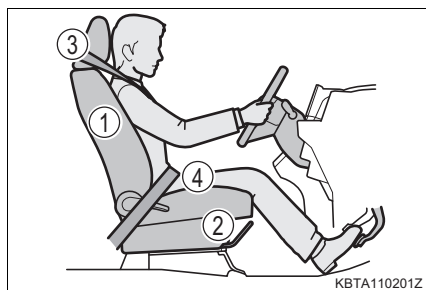


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- ② ペダルをしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 67）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 18）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 18）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 24）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警告

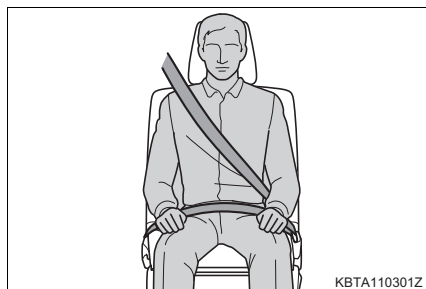
- 他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
 - 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
 - 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
 - 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
- また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

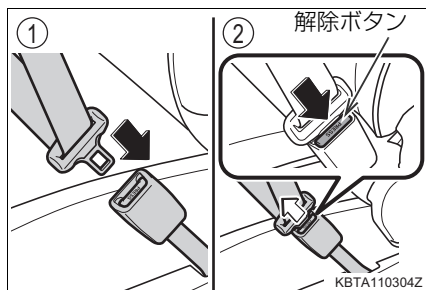
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする



着け方・外し方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに差し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがなければ確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



📖 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

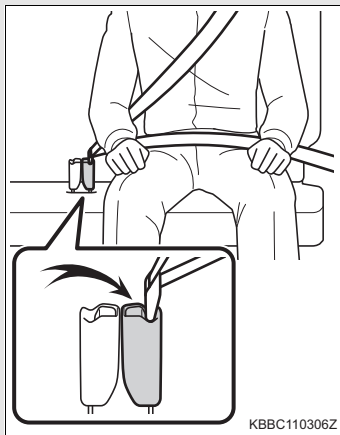
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- 後席のシートベルトを着用するときは、体に近いバックルを使用する



■ お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 24)
- シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 18)

⚠ 警告

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 18)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児まで重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 34

■ シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

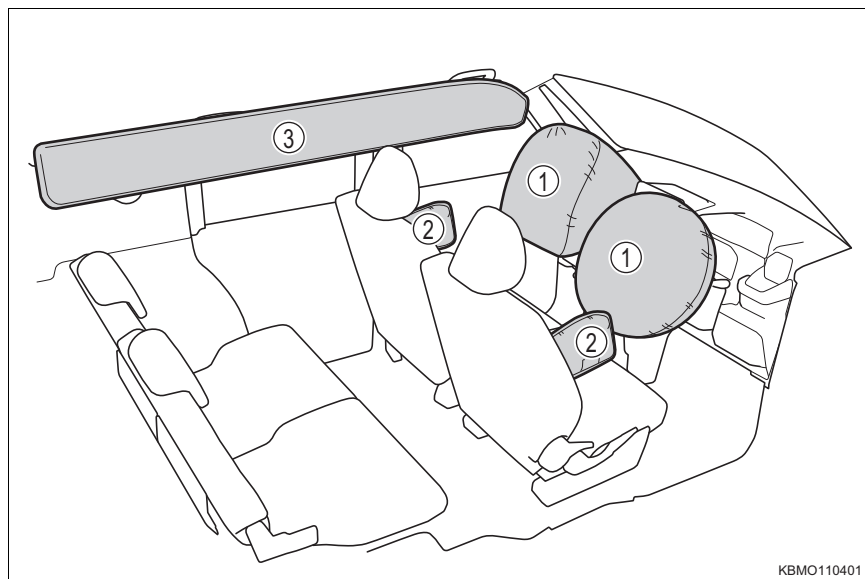
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。不適切に扱くと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(前席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

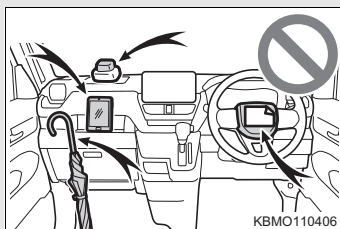
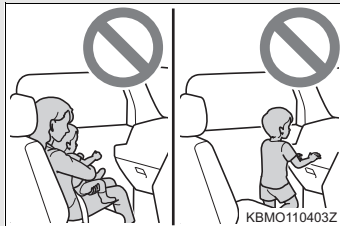
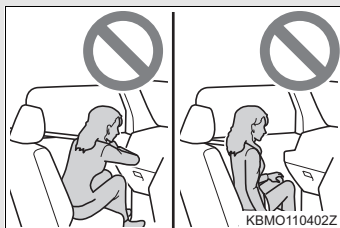
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 24)

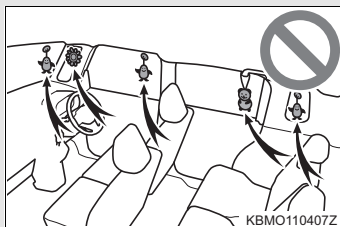
⚠ 警告

- シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかりたりしない
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない
- 助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、手足や顔などを出したりしない
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



⚠ 警告

- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー
およびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシスト
グリップなどには何も取り付けない
(速度制限シールを除く：→ P. 211)



- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリがエアバッグが正常に作動するのを妨げ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
 - SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
 - SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
 - SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。
- **SRS エアバッグが作動するとき**
- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- **改造・廃棄について**
- ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
- SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
 - ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取り外し・改造
 - フロントドアパネルの穴あけなどの改造
 - フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
 - グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
 - サスペンションの改造
 - CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

⚠ 警告

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所にお車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 24)
- 運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 71) を使用してください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・ドアやシート・アームレスト★など、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 24 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 28)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0: 10kg まで

グループ 0⁺: 13kg まで

グループ I: 9 ~ 18kg

グループ II: 15 ~ 25kg

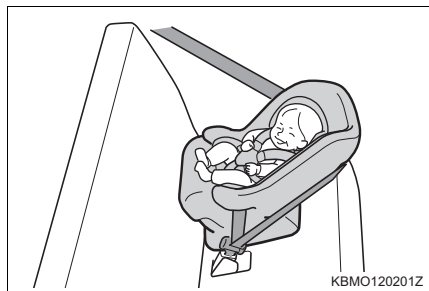
グループ III: 22 ~ 36kg

※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

▶ ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当



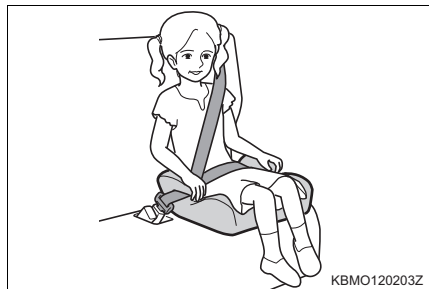
▶ チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、III に相当



⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれ強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 28）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

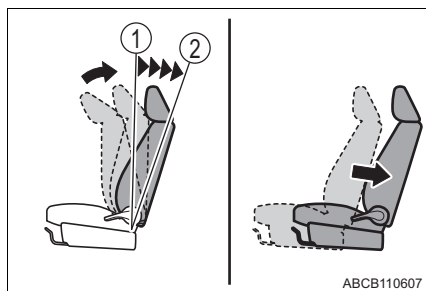
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置(①)まで起こし、5 段目の固定位置(②)まで調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す（→ P. 67）
- シートをいちばん後ろに下げる



⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

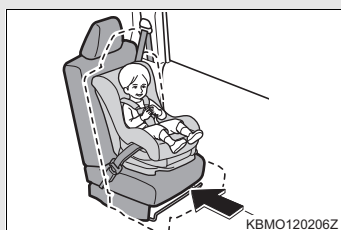
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



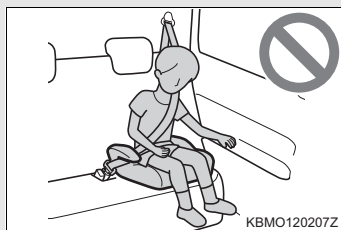
- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ チャイルドシートを使用するとき

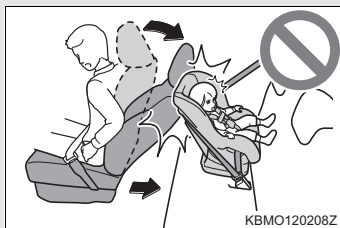
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 29）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 31）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

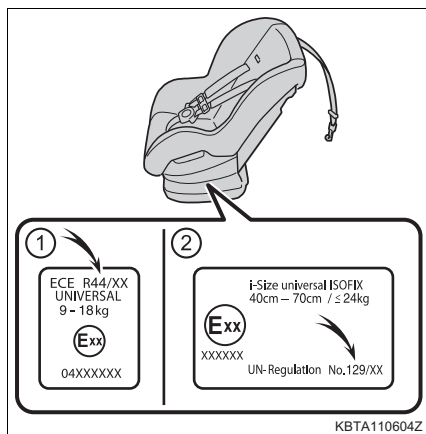
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

- ① UN (ECE) R44 認可マーク※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② UN (ECE) R129 認可マーク※²
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

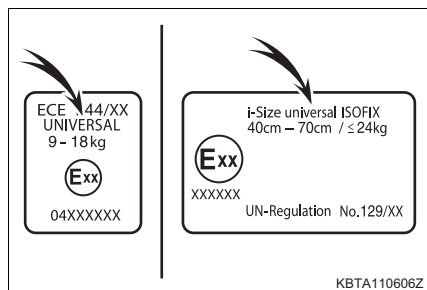
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

② チャイルドシートのカテゴリを確認する

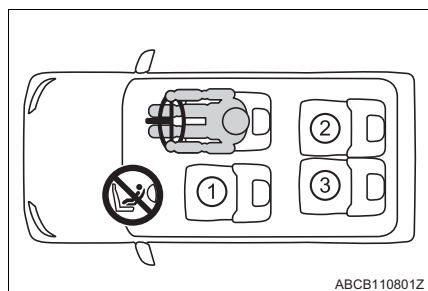
チャイルドシートのカテゴリが次のどのカテゴリに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1、2、3	U ※6
② ※3、4、5	U L  
③ ※3、4、5	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 31）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



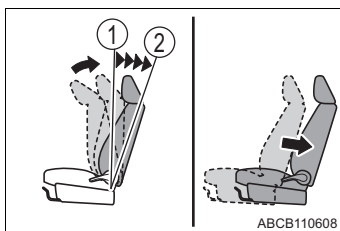
トップテザーアンカーが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けねてください。

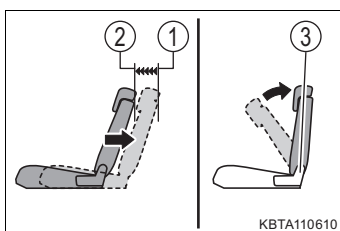
※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。

- ※2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、5 段目の固定位置 (②) まで調整してください。

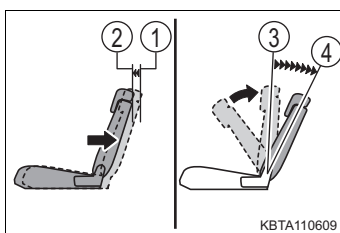


- ※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

- ※4 チャイルドシートをシートベルトで固定する場合、シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置 (①) から 6 段目の固定位置 (②) に調整してください。また、背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (③) まで起こしてください。



- ※5 i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートを固定する場合、シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置 (①) から 3 段目の固定位置 (②) まで調整してください。また、背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (③) まで起こし、9 段目の固定位置 (④) まで調整してください。



- ※6 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル (汎用) ベルト式に搭載可能な着座位置 (有／無)	有	有	有
i-Size 着座位置 (有／無)	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具 (L1 / L2)	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具 (R1 / R2X / R2 / R3)	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3

着座位置			
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具 (F2X / F2 / F3)	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具 (B2 / B3)	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	身長：～ 83cm (体重：～ 13kg)	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm (体重：～ 18kg)	前向き	×	○	○

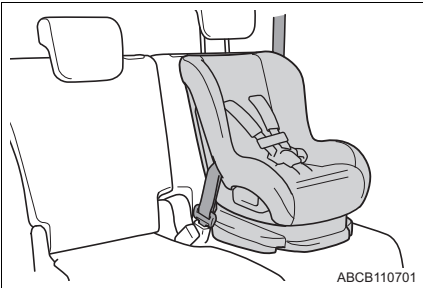
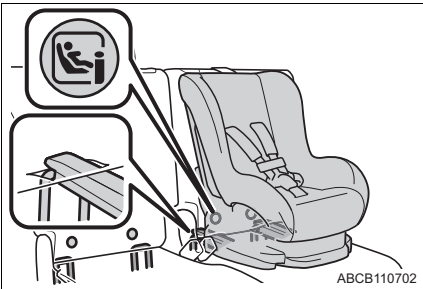
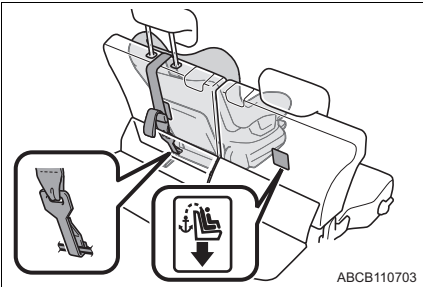
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉ないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 32
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 34
テザーベルトを固定する		P. 36

チャイルドシートをシートベルトで固定する

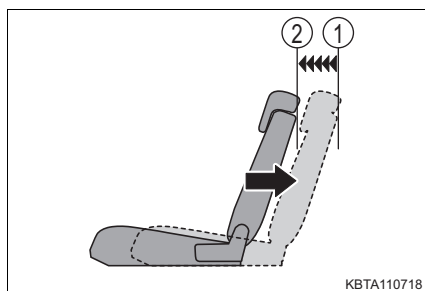
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

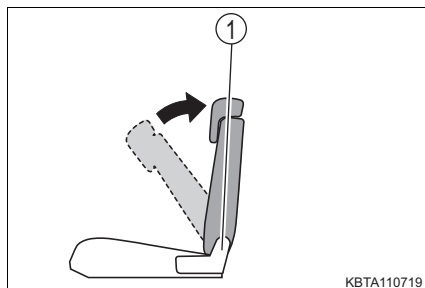
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 29）

- ① やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 26）

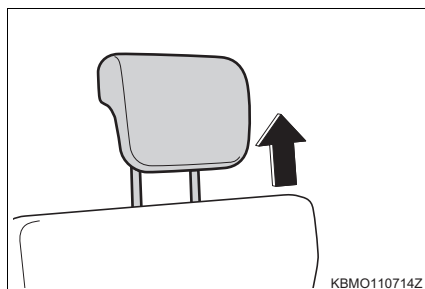
- 2 シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置 (①) から 6 段目の固定位置 (②) に調整する



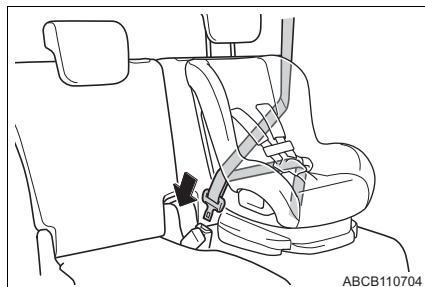
- 3 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こす



- 4 ヘッドレストをいちばん上まで上げる
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 67)



- 5 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



- 6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

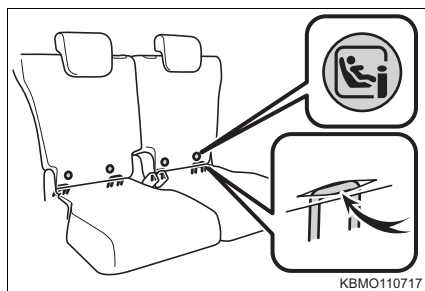
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆずって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤ席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

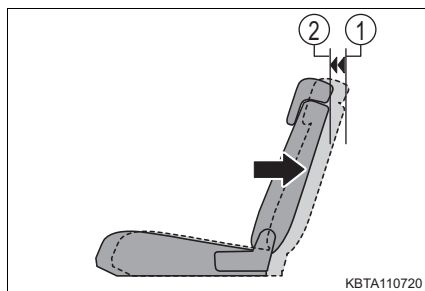


■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

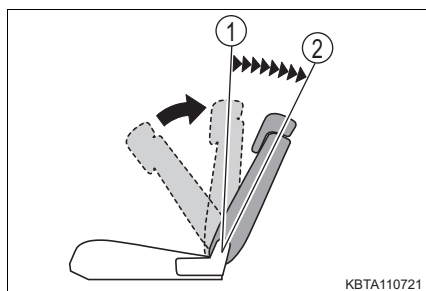
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 29)

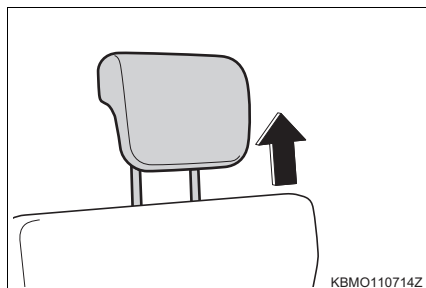
- ① シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置 (①) から 3 段目の固定位置 (②) に調整する



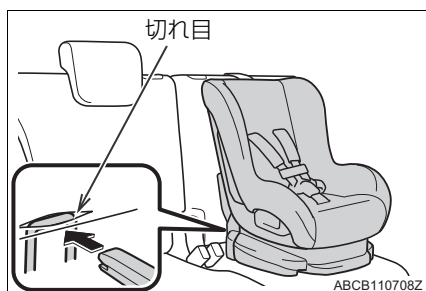
- 2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、9 段目の固定位置 (②) まで調整する



- 3 ヘッドレストをいちばん上まで上げる
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 67)



- 4 チャイルドシートをシートに取り付ける
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

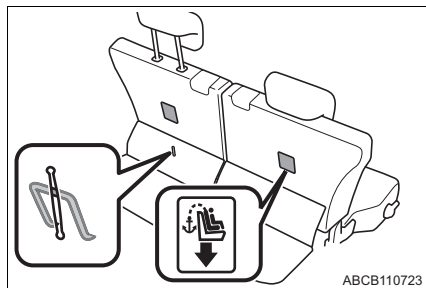
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

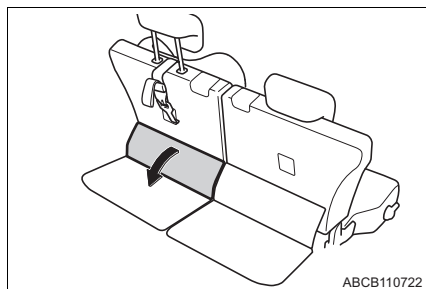
このお車はリヤ席にトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

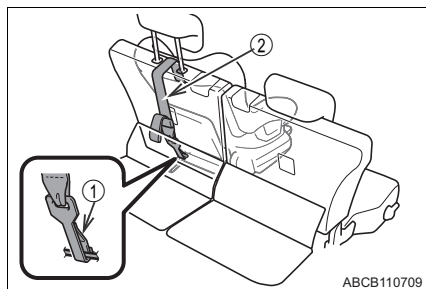
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

① カバーを手前に倒す



② トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

- ① フック
- ② テザーベルト



③ 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 警告

■ リヤヘッドレストについて

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上かけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム★

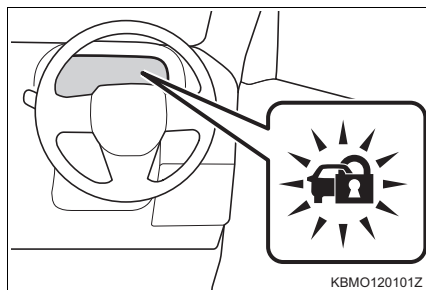
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



📖 知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、次の場合にセキュリティアラームが作動します。

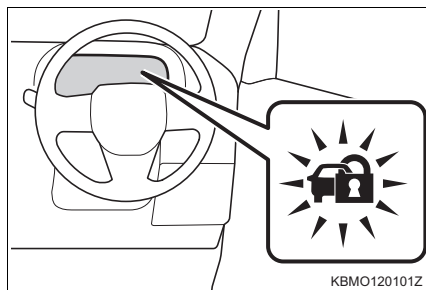
- 施錠されたドアが、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅に変わります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

- キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

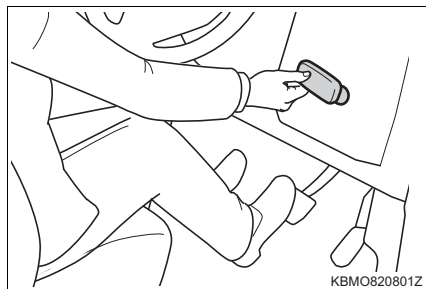
次のいずれかを行ってください。

- ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す
- キーフリーシステム★で施錠・解錠する
- 電子カードキー★を携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

■ 電子カードキーが正常に働かないとき（キーフリーシステム装着車）

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる





■ メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- キーフリーシステム非装着車で、キーがエンジンスイッチに差し込まれたとき
- キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき

■ セキュリティ表示灯について（キーフリーシステム装着車）

エンジンイモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

■ セキュリティアラームの作動について

- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。ただし、ボンネットが開けられてセキュリティアラームが作動したときは、すぐに 2 次作動が作動します。

▶ 1 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
- ・ 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る
- ・ フロントパーソナルランプとルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）

▶ 2 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
- ・ 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- ・ ホーンが 30 秒間断続的に鳴る
- ・ フロントパーソナルランプとルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）

- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再度設定状態になり、すべてのドアが施錠されます。

■ セキュリティアラームの作動履歴について

エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

- エンジンスイッチを“ON”にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。



注意

■ セキュリティアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	42
計器類	48
マルチインフォメーション ディスプレイ	49
TFT カラーマルチ インフォメーション ディスプレイ	51

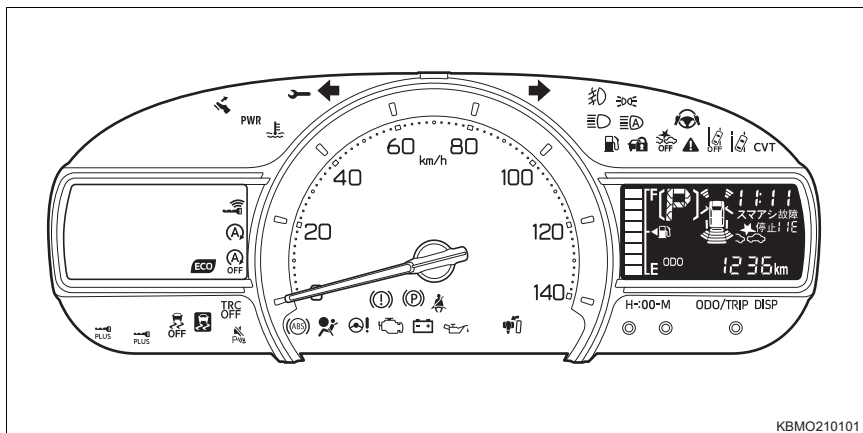
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯

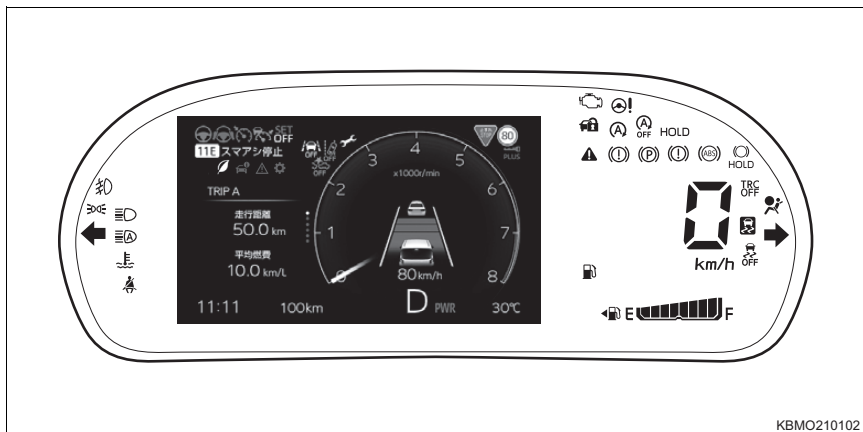
メーター・インナーミラー上部の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



万一のシステム異常などを警告します。

		警告灯	参照先
※1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色★）	178
※1		充電警告灯★	178
※1		油圧警告灯★	178
※1		高水温警告灯（赤色）	179
※1		エンジン警告灯	179
※1		CVT 警告灯★	179
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	179
※1		ABS 警告灯	179
※1		オートブレーキホールド作動表示灯（点滅）★	179
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	179
※1、2		キーフリー警告灯★	183
※1		AHB / ADB 警告灯（黄色）	179
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	180
※1、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	180
※1、5		マスターウォーニング	180
		スマートアシスト故障警告灯★	180

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		スマートアシスト停止警告灯★	202
※1		ACC 警告灯（黄色）★	180
※1		LKC 警告灯（黄色）★	180
※6		コーナースエンサー表示灯★	180
※1、7		スリップ表示灯（点灯）	180
※8		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	180
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	183
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯★／ドライブスタートコントロール警告灯★	181
※1		手放し運転警告灯	181
		半ドア警告灯★	181
		燃料残量警告灯	181
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	181
※9		後席シートベルト締め忘れ警告灯	181
※1		エンジンオイル劣化警告灯★	181
※1、10、11		パーキングブレーキ表示灯（点滅）	182
		プラスサポート警告灯（黄色）★	181
※1		急アクセル時加速抑制警告灯★	182

- ※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れが近い状態であることを示します。(→ P. 183)
- ※3 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。
- ※4 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC ★を停止にしたときも点灯します。
- ※5 スマートアシストが作動したときも点灯します。
- ※6 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。
- ※7 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※8 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。
- ※9 インナーミラー上部に点灯します。
- ※10 電動パーキングブレーキ装着車
- ※11 パーキングブレーキがかかっているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯	参照先
		方向指示表示灯
		ハイビーム表示灯
		フロントフォグランプ表示灯★
※1		低水温表示灯（青色）
		セキュリティ表示灯
		尾灯表示灯
※2		スリップ表示灯（点滅）
※2		VSC OFF 表示灯
※2		TRC OFF 表示灯
※2		エコドライブインジケータランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
※2		eco IDLE 表示灯（点灯）	—
※3		eco IDLE OFF 表示灯（点灯）	—
※2		スマートアシスト作動灯	92
※2、4		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯）	91
※2		車線逸脱警報作動灯（点滅）	94
※2		ハンドル操作支援作動灯★	—
※2、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯）	91
		ACC 表示灯（緑色）★	123
※2		クルーズコントロール表示灯★	126
※2		ACC SET 表示灯★	119
		ACC OFF 表示灯★	119
		LKC 表示灯（緑色）★	—
		LKC OFF 表示灯★	—
		AHB / ADB 作動灯（緑色）	—
※5		コーナースエンサー表示灯★	—
		パワーモードインジケータ	—
※6		パーキングブレーキ表示灯（点灯）	81

表示灯			参照先
※2、7		オートブレーキホールドスタンバイ表示灯★	—
※2		オートブレーキホールド作動表示灯（点灯）★	—
		コーナーセンサーブザー OFF 表示灯★	—
※2		プラスサポート表示灯（緑色）★	—

- ※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。エンジンの暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。
- ※4 スマートアシストに異常があるときは点滅します。
- ※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。
- ※6 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※7 オートブレーキホールド機能が ON のときは、エンジンをかけると点灯します。

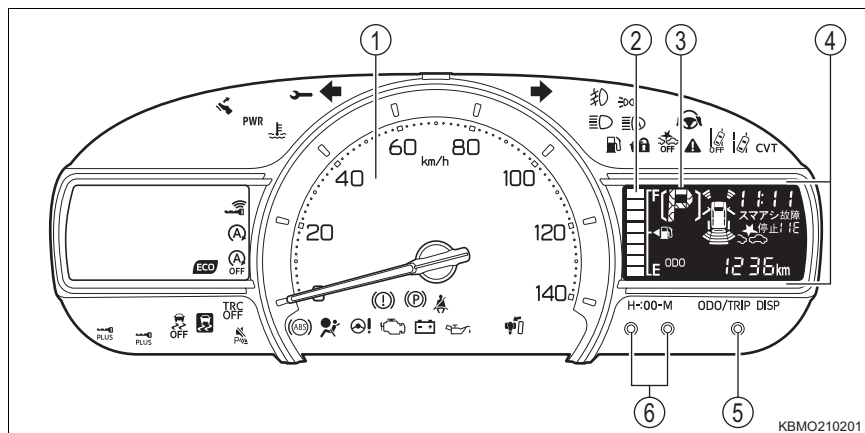
⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

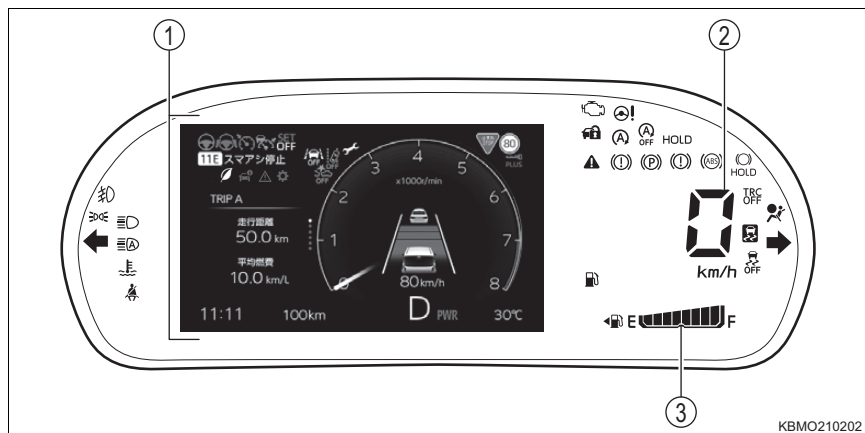
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 燃料計
燃料残量を示します。
- ③ シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 80)
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 49)
- ⑤ 表示切り替えスイッチ
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。
- ⑥ 時計調整スイッチ



- ① TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 51)
- ② スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ③ 燃料計
燃料残量を示します。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

●トリップインフォメーション

表示される項目は次の通りです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター A / B
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 外気温
- ・ アイドリングストップ時間
- ・ アイドリングストップ積算時間
- ・ メーター照度調整

●燃料計

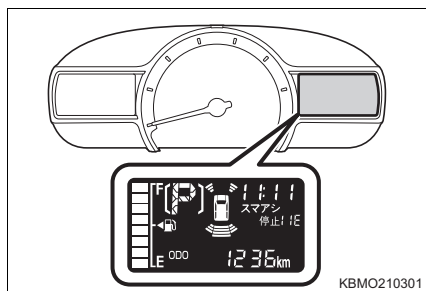
燃料残量を示します。

●シフトポジション表示 (→ P. 80)

●時計表示

●スマートアシスト機能停止コード表示 (→ P. 202)

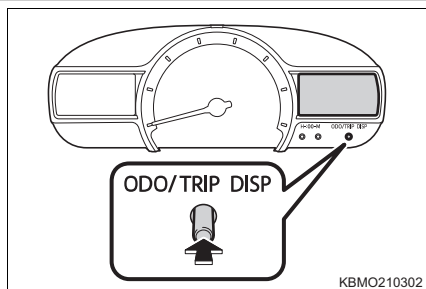
●コーナーセンサー表示灯



KBMO210301

表示切り替え

トリップインフォメーションの表示を切り替えるには、表示切り替えスイッチを押します。

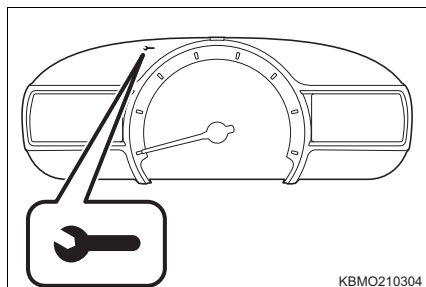


エンジンオイル劣化警告初期化

エンジンオイルを交換したあとに操作してください。

エンジンオイルが劣化しているとき、またはエンジンオイルの交換時期が近付いているとき、エンジンオイル劣化警告灯が点灯、または点滅します。(→ P. 181)

- 1 表示切り替えスイッチを押してトリップメーター A を表示する
- 2 エンジンスイッチを "OFF" にする
- 3 表示切り替えスイッチを押しながらエンジンスイッチを "ON" にする
エンジンは始動しないでください。
エンジンオイル劣化警告灯が消灯するまで表示切り替えスイッチを押したままにしてください。
- 4 エンジンオイル劣化警告灯が速く点滅していることを確認する



警告

■ 走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

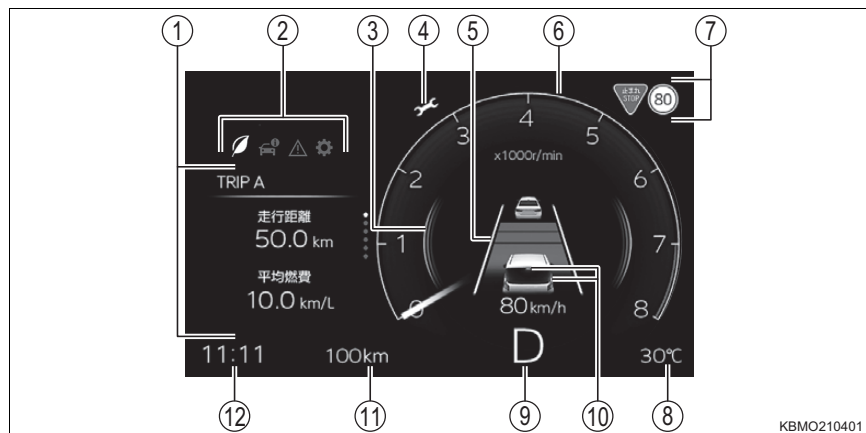
■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、車両や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を変更することができます。



① コンテンツ表示、標識表示

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

標識認識機能（進入禁止）で認識した標識を表示します。（→ P. 116）

② メニューアイコン

アイコンを切り替えてコンテンツを表示させます。

③ エコドライブアシスト照明

環境に配慮した運転の度合を判定して、照明の色が3段階で緑色に変化します。

- ・ パワーモード選択時は、表示の色が橙色に変化します。
- ・ 全車速追従機能付 ACC ★ を使用しているときは、照明の色は変化しません。（→ P. 119）

④ メンテナンスアイコン

お知らせがあるときに点灯します。

点灯しているときは、内容を確認し、メンテナンスを行ったあとは再度設定をしてください。

⑤ 運転支援表示

次のシステムの作動状態を確認することができます。

- ・ 全車速追従機能付 ACC ★ （→ P. 119）
- ・ LKC ★
- ・ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能

⑥ タコメーター表示

毎分のエンジン回転数を表示します。

⑦ 標識表示

標識認識機能（最高速度／一時停止）で認識した標識を表示します。（→ P. 116）

⑧ 外気温表示

- ・ 外気温を表示します。
外気温：-30℃～60℃の間で表示します。
- ・ 外気温が3℃以下になると路面凍結警告を表示します。
温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑨ シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 80)

⑩ ブレーキランプ表示
制動灯点灯時は、赤色に変化します。
表示の ON / OFF を設定できます。

⑪ オドメーター表示
走行した総距離を表示します。

⑫ 時計表示
アナログ時計表示中は、日付が表示されます。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。

①   スイッチ

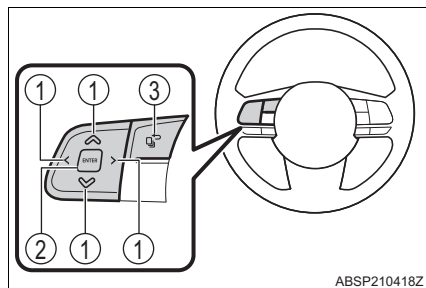
- ・メニューを切り替えます。
- ・コンテンツの切り替え、ページ送り、カーソルの移動をします。

② ENTER スイッチ

- ・項目の決定・選択をします。
- ・長押しすると、走行情報の項目をリセットします。

③ DISPLAY / RETURN スイッチ

- ・基本画面を切り替えます。
- ・設定画面を操作するときは、ひとつ前の画面に戻ります。
- ・長押しすると、最初の画面に戻ります。
- ・警告メッセージが表示されたときは、非表示になります。



設定

■ 日時

日時を設定できます。

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON / OFF を設定できます。

①   スイッチを押してメニューを  に切り替える

②   スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 3   スイッチを押して設定したい項目を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・自動補正は ENTER スイッチを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
- ・自動補正を「ON」に設定した場合は、日時の調整はできません。

- ・年・時・分は



が表示されたあと、 

スイッチを押して数値を設定し、再度ENTERスイッチを押します。

設定時刻の0秒にリセットされた状態から時計が作動を始めます。

- ・12H / 24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- ・12H / 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

■ オイル劣化警告初期化

エンジンオイルを交換したあとに操作してください。

エンジンオイルが劣化しているとき、またはエンジンオイルの交換時期が近付いているとき、交換を促すメッセージが表示されます。(→ P. 198)

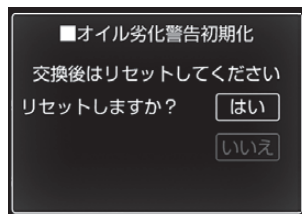
- 1   スイッチを押してメニューを  に切り替える

- 2   スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「オイル劣化警告初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 3   スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す
「リセット完了しました」が表示されたことを確認してください。



ABSP210404



ABSP210415

⚠ 警告

■ 走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

→ P. 50

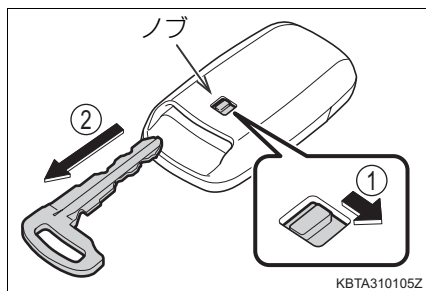
3-1. キー	
キー	56
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	56
ワイヤレスリモコン	58
フロントドア	58
スライドドア	60
バックドア	65
3-3. シートの調整	
フロントシート	66
リヤシート	67
ヘッドレスト	67
シートアレンジ	69
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	70
インナーミラー	70
ドアミラー	70
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	71

3-1. キー

キー

エマージェンシーキーを使うには（キーフリーシステム装着車）

- ① ノブをスライドする
- ② エマージェンシーキーを取り出す
使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。（→ P. 215）

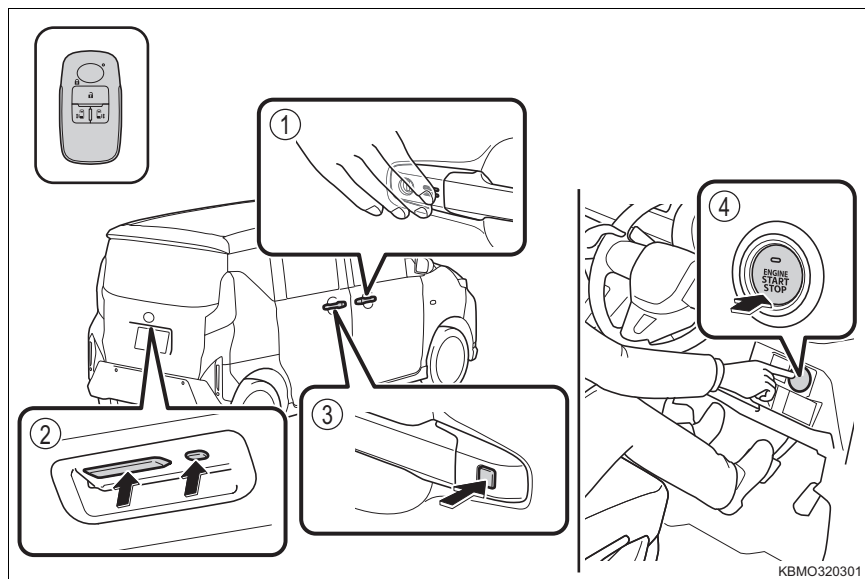


3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

キーフリーシステム★

機能概要

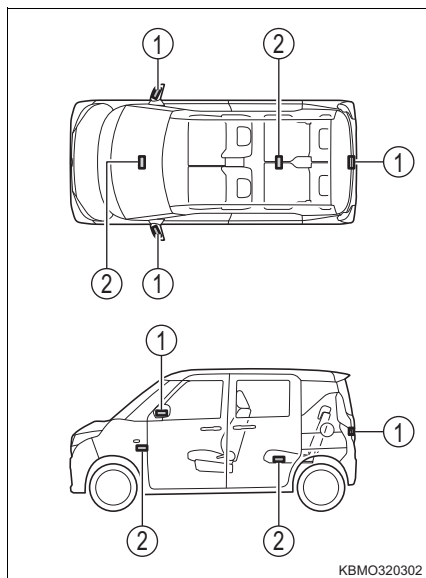
電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



- ① 全ドアを施錠・解錠する（→ P. 58）
- ② 全ドアを施錠・解錠する（→ P. 65）
- ③ 全ドアを解錠してスライドドアを開ける（→ P. 60）
- ④ エンジンを開始する（→ P. 78）

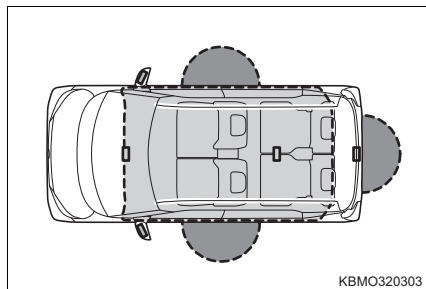
■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
(電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します)
- : エンジン始動時またはモード切り替え時
車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。





■ ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 57）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを施錠・解錠できます。

▶ キーフリーシステム非装着車

→ P. 58

▶ キーフリーシステム装着車

→ P. 58

フロントドア

ドアの施錠／解錠

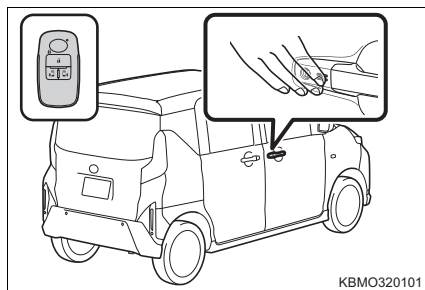
キーフリーシステム★やワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯し、リクエストスイッチ（ハンドルのくぼみ部）に触れ全ドアを解錠・施錠するスイッチに確実に触れてください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。（タッチ & ゴーロック機能★使用時を除く）



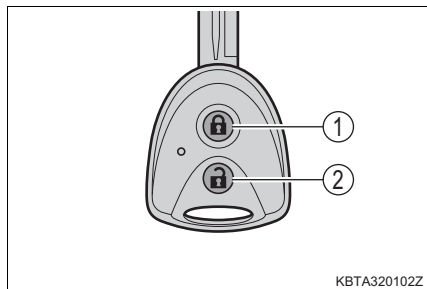
▶ ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する

ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

▶ キーフリーシステム非装着車



- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する

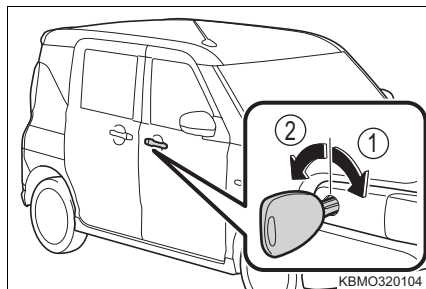
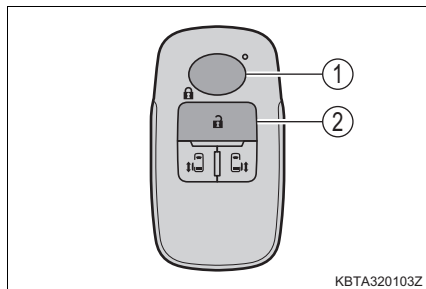
■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。

▶ キーフリーシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

▶ キーフリーシステム装着車

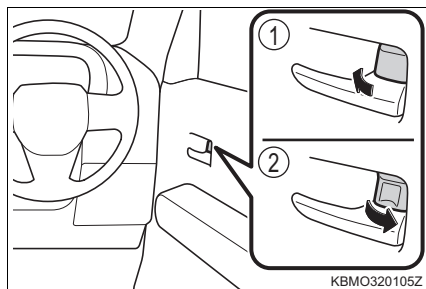


▶ キーフリーシステム装着車

エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 215)

■ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する
 - ・ 運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。
 - ・ 運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くとすべてのドアが解錠され、ドアが開きます。



⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

- 傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■ お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたすらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スライドドア

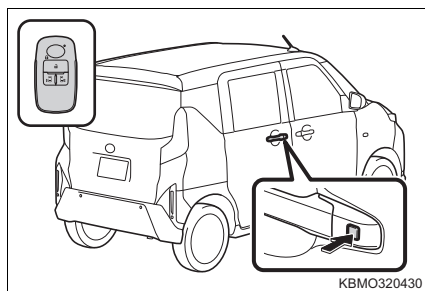
車外からの解錠／施錠

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯し、ワンタッチスイッチを押して全ドアを解錠する

同時にスライドドアが自動で開きます。

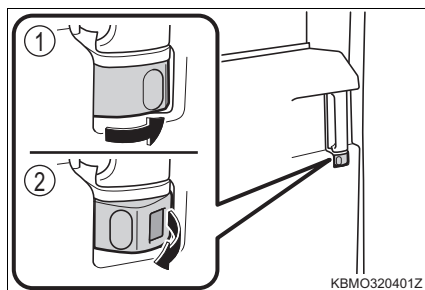
スイッチを確実に押してください。



車内からの解錠・施錠

■ ロックレバー

- ① 施錠
- ② 解錠



⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

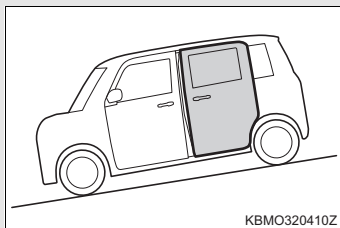
- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドア★：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。または、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。(全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます) 半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜が急な場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアに当たったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

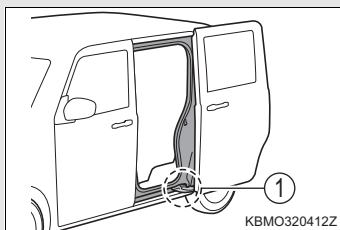


⚠ 警告

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

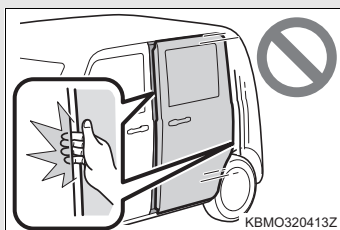


- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に (①) の部分には十分注意してください。



■ スライドドアイーজークローザー★について

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



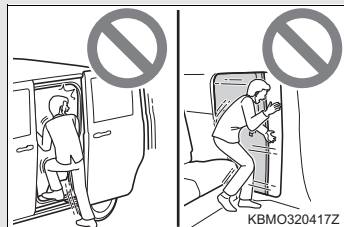
- スライドドアイージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドア★について

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキを確実にかけて、お車が完全に停止している状態で行ってください。
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

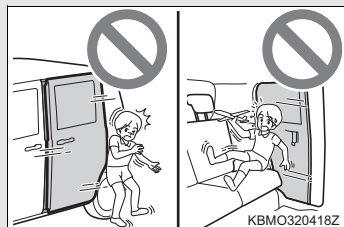


- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 傾斜した場所ではパワースライドドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、給油扉を開いたりしたときやセンサーなどが故障したときは、ブザーが鳴り作動が停止して、約 3 秒後に停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。

- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。

この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 自動開作動中に車速が約 3km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。この場合、同乗者や荷物が車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車するか、スイッチやドアハンドルの操作でスライドドアを全開にしてください。

- パワースライドドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチの操作により、スライドドアを完全に閉めてください。

- エンジン停止中に、パワースライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドアハンドルの操作で停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき

⚠ 警告

- ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON”にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能★（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ウェルカムオープン機能★について

ウェルカムオープン機能によるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

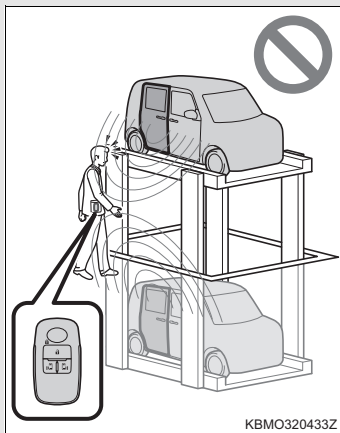
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアミラーから約 3m 以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。

周囲に人がいるときは、車両に近づく前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムオープン機能を作動させないでください。

- 機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。

車両が電子カードキーよりも上、または下にある状態でも電子カードキーが検知されればウェルカムオープン機能が作動し、スライドドアが自動的に開作動します。



- 電子カードキーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでの間は、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子カードキーのボタンを押せる状態でお待ちください。
- スライドドアの開作動までの待ち時間の変更で待ち時間を短く設定したときは、電子カードキーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

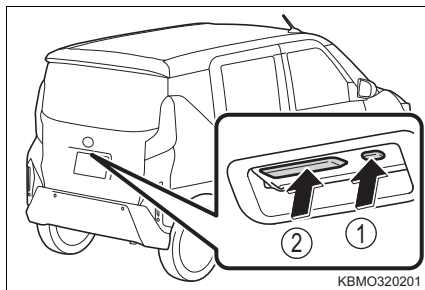
バックドア

車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
バックドアが半ドア状態になります。
施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



車内からの施錠／解錠

■ ロックレバー

→ P. 59

⚠ 警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを開めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

- お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

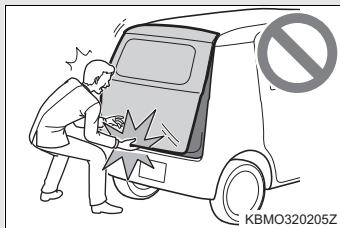
- お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアのスイッチを押すときは、スイッチ横の番号灯に触れないでください。点灯中、または消灯直後は電球が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押しつけて閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

3-3. シートの調整

フロントシート

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ 背もたれを前に倒すときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとに戻したあとは

- シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

3

各部の
操作

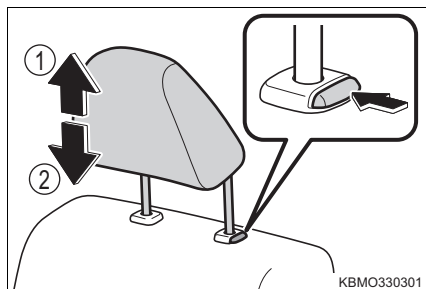
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

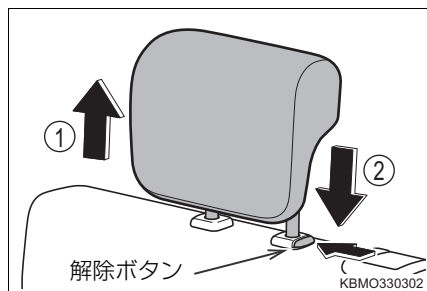
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。

フロントシートのヘッドレストが天井に当たって外すことができないときは、背もたれを倒してください。(→ P. 66)

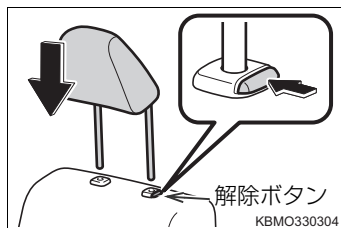


■ ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

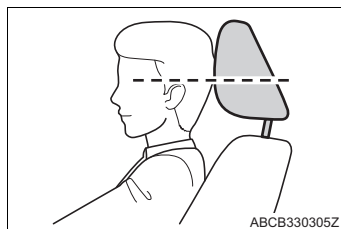
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストを外したまま走行しない

シートアレンジ

⚠ 警告

■ シートアレンジについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- 必ず背もたれを手で押さえながらシートアレンジ操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆすり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物を壊したりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■ ロングソファモードについて

- 人を乗せて走行しないでください。体が固定されていないため、急ブレーキや事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。

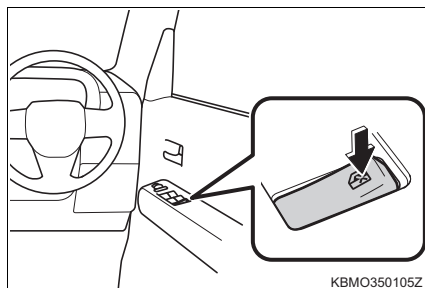
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

警告

次のことを必ずお守りください。

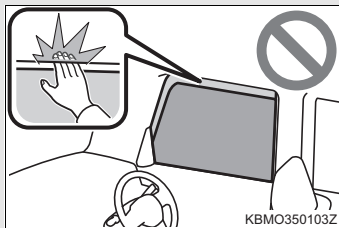
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 71）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- お車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまと一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。
- 特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	74
荷物を積むときの注意	77

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム非装着車）	77
エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム装着車）	78
CVT 車の運転	80
方向指示レバー	81
パーキングブレーキ	81
電動パーキングブレーキ	82
オートブレーキホールド 機能	83

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	84
AHB（オートハイビーム）	85
ADB（アダプティブ ドライビングビーム）	85
ワイパー＆ウォッシャー （フロント）	86
ワイパー＆ウォッシャー （リヤ）	87

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	87
---------	----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	89
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	102
ブレーキ制御付誤発進抑制 機能（前方・後方）	110
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能／ 車線逸脱抑制制御機能	113
ふらつき警報	115
先行車発進お知らせ機能	115
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	116
全車速追従機能付 ACC （アダプティブクルーズ コントロール）	119
LKC（レーンキープ コントロール）	129
アイドリングストップ システム（eco IDLE）	131
コーナーセンサー	132
バックカメラ	133
パノラマモニター	134
スマートパノラマ パーキングアシスト	138
プラスサポート （販売店オプション）	143
運転を補助する装置	143

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	146
--------	-----

4-1. 運転にあたって

運転にあたって

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。（ブレーキ保持による停車時を除く）クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 175 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 80）
- 路面状態や速度に応じて、次のようにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
 - ・ シフトレバーを S にする
 - ・ より強いエンジンブレーキが必要な場合はシフトレバーを B にする
- 急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、フルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■ 滑りやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いている間は、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進している間は、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

- ハンドルが取られる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 205 を参照してください。

■ 万一脱輪したときは (4WD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあります。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ ふたのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーが P にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏み
- 5 エンジンスイッチを“START”の位置に回す
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

エンジンスイッチの位置の切り替え

① “LOCK” (“OFF”)

シフトレバーがPのとき、キーを抜き差しできます。
ハンドルロックがかかります。
非常点滅灯が使用できます。

② “ACC”

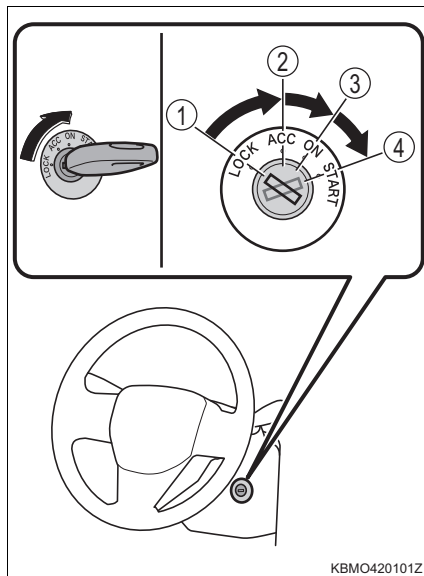
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

エンジンが始動できます。



⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“OFF”にしないでください。

走行中にエンジンを停止すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”にしてエンジンを停止してください。
(→ P. 175) 緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。

走行中にエンジンを停止するとハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

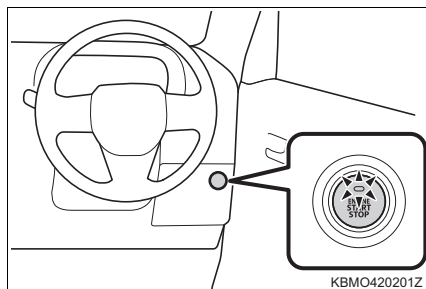
エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム装着車）

電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切り替えることができます。

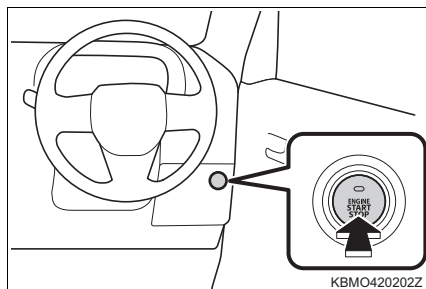
エンジンのかけ方

- ① 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- ② パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ③ シフトレバーがPにあることを確認する

- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏み
エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、長押しする必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモード（→ P. 79）からでもエンジンを始動できます。
プラスサポートをご使用の方は、P. 143 も併せて参照してください。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 81）、シフトレバーを P にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
3 エンジンスイッチを押す
4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります）

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

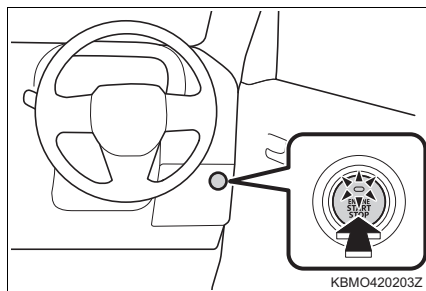
“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは “ACC” になり、“OFF” になりません。



警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。

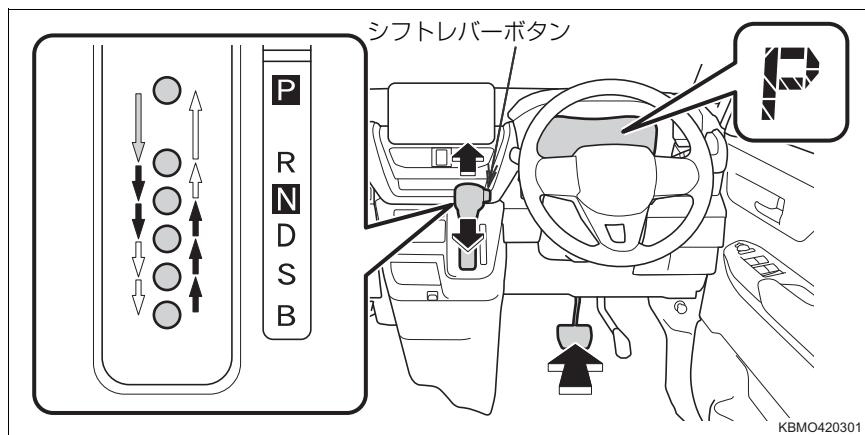
■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 175)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



KBMO420301

← : エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

← : シフトレバーボタンを押して操作します。

← : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

⚠ 警告

■ 滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

① 左折

② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持 ※）

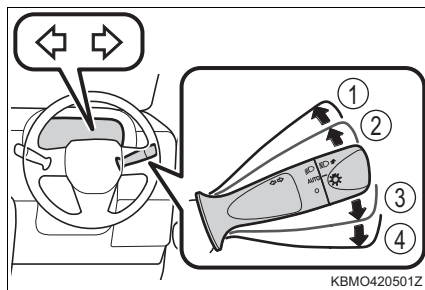
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持 ※）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



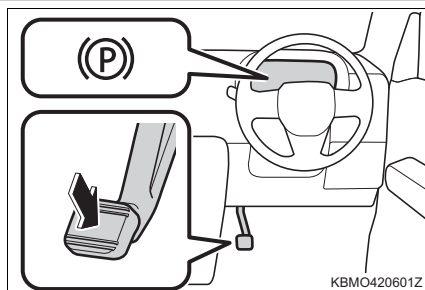
■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

パーキングブレーキ★

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



電動パーキングブレーキ★

自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモード作動中は、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモード作動中でも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける（スイッチを引く）

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

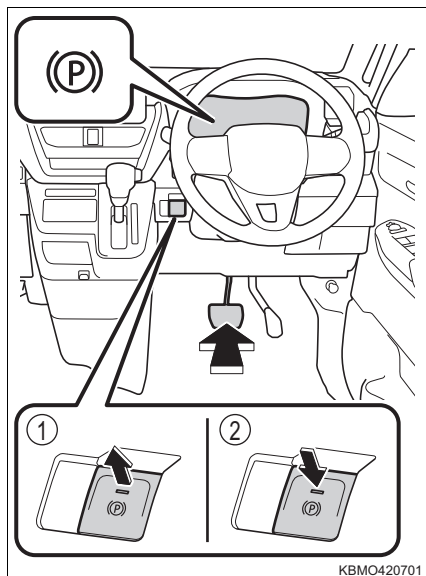
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。

② パーキングブレーキを解除する（スイッチを押す）

- ・ブレーキペダルをしっかりと踏みながら操作してください。

- ・オートリリース機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときは、ゆっくり踏んでください。

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が消灯します。



■ オートモード

シフトレバーをP以外からPにしたとき、自動でパーキングブレーキをかけることができます。

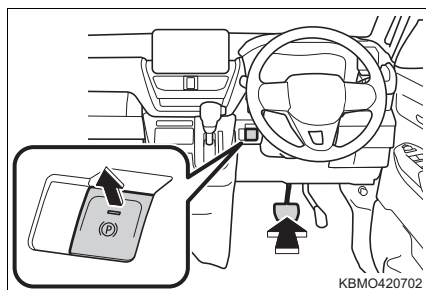
パーキングブレーキがかかると、パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

パーキングブレーキの解除方法は、マニュアルモード（→ P. 82）を参照してください。

▶ オートモードを ON にする

停車中にパーキングブレーキがかかった状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを引き続ける

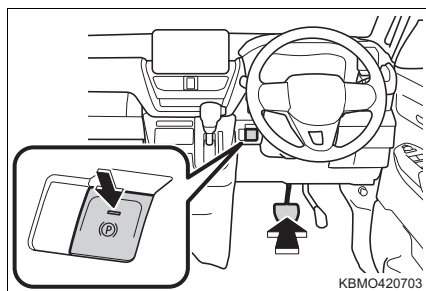
ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



▶ オートモードを OFF にする

停車中にパーキングブレーキが解除された状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ビビッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



⚠ 警告

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。お車が動きだしたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、パーキングブレーキの思わぬ作動につながるおそれがあります。

■ 走行時のパーキングブレーキ使用について

緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。

■ 走行前の留意事項

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 故障などでパーキングブレーキが作動しないとき

システム異常により電動パーキングブレーキが作動しない場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

オートブレーキホールド機能★

⚠ 警告

■ 急坂路では

急な坂道ではオートブレーキホールド機能を使用しないでください。オートブレーキホールド機能が作動しない、または作動しても停車を維持できずに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 滑りやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。滑りやすい路面での使用は控えてください。

■ 安全にお使いいただくために

● オートブレーキホールド機能を過信しないでください。オートブレーキホールド機能は停車時のブレーキ操作を補助する機能です。ブレーキ操作を怠ると不意にお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の交通状況に応じて適切にブレーキ操作を行ってください。

● オートブレーキホールド作動表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。

■ 駐車するとき

オートブレーキホールド機能は長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されてお車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。

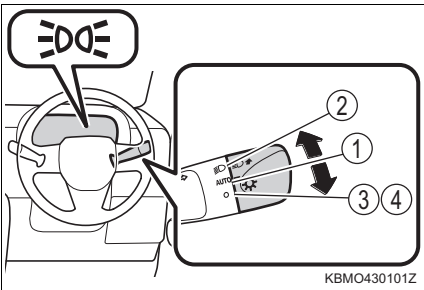
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON” のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



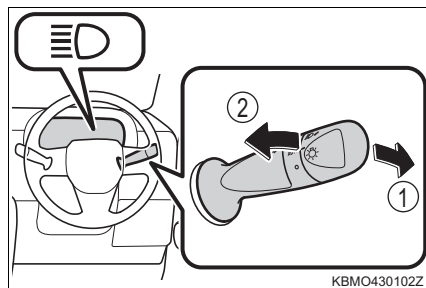
スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯 ※1	
③※2、3	 (約 1 秒以上操作)	消灯	点灯
④※2、4	 (約 2 秒以上操作)	消灯	

- ※1 エンジンスイッチが“ACC” または “OFF” のときも点灯します。
- ※2  スイッチを  の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。
- ※3 自動点灯中で次のいずれかの状態のとき
- ・ 車速が約 3km/h 以下
 - ・ 停車中から発進後約 20 秒経過していない、かつ車速が約 15 km/h 以下
- ※4 停車中で次のいずれかの状態のとき
- ・ シフトレバーが P
 - ・ パーキングブレーキがかかっている
- ランプ類の再点灯について
-  スイッチを  の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。
- 再度  スイッチを  の位置に操作したとき
 - エンジンスイッチを再度 “ON” にしたとき
 - 車速が約 15km/h を超えたとき (③ のスイッチ操作時のみ)

- 車速が約 15km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 20 秒経過したとき（③のスイッチ操作時のみ）
- シフトレバーをP以外にした、およびパーキングブレーキを解除したとき（④のスイッチ操作時のみ）

ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え
レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。
- ② レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯しま
す。



AHB（オートハイビーム）★

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

AHBを過信しないでください。AHBは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

4

運
転

ADB（アダプティブドライビングビーム）★

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

ADBを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

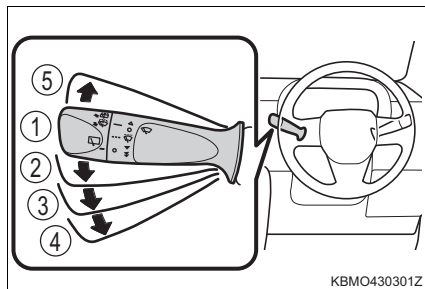
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



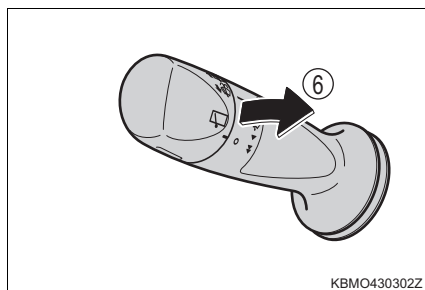
を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

- ① ○ : 停止
- ②  : 間欠作動
- ③ ▼ : 低速作動
- ④ ▼▼ : 高速作動
- ⑤ ▲ : 一時作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。



- ⑥  : ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



⚠ 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

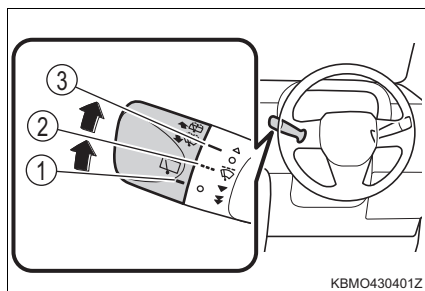
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

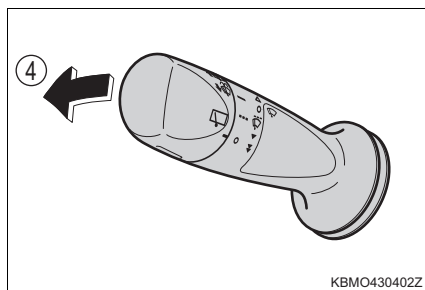
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ①  : 停止
- ②  : 約 4 秒間低速作動したあと、間欠作動
- ③  : 通常作動



- ④  : ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



4

運
転

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方

給油する前に

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近づけないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

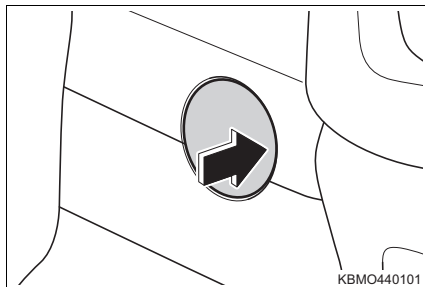
- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。

⚠ 警告

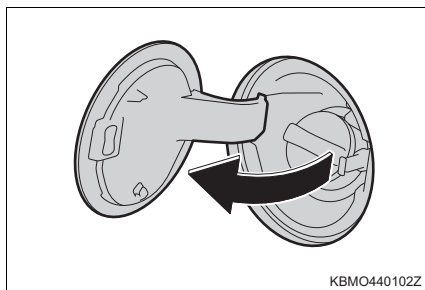
- 吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口の開け方

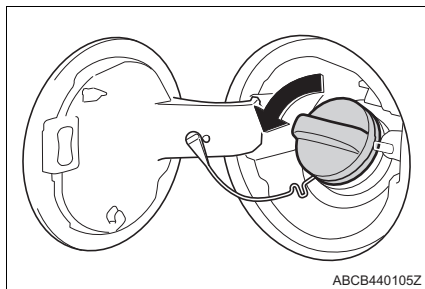
- 1 運転席ドアが解錠された状態で、給油扉の右端を押す
給油扉が開きます。
給油扉の施錠・解錠は、運転席ドアの施錠・解錠と連動しています。



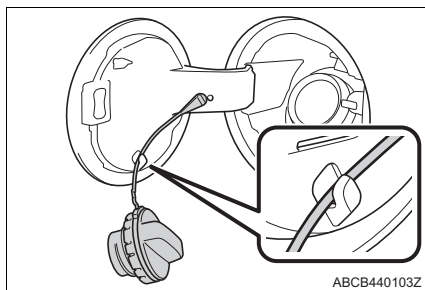
- 2 給油扉を止まる位置まで開ける
給油扉が戻らないことを確認する。



- 3 キャップをゆっくり回して開ける

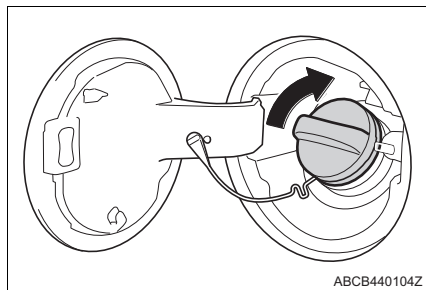


- 4 キャップをハンガーにかける



給油口の閉め方

- 1 キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉める
手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。



- 2 給油扉を確実に閉める

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 102

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 102

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 110

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 113

◆ 車線逸脱抑制制御機能

→ P. 113

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 113

◆ ふらつき警報

→ P. 115

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 115

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

→ P. 116

◆ 全車速追従機能付 ACC ★

→ P. 119

◆ LKC ★

→ P. 129

◆ AHB ★

→ P. 85

◆ ADB ★

→ P. 85

⚠ 警告

■ スマートアシストについて

- スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。（→ P. 91）
 - ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・ タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - ・ サスペンションを改造したとき
 - ・ ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたりするとき
 - ・ ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ・ ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 車両を改造・架装したとき
 - ・ けん引されるとき
 - ・ キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
 - ・ シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - ・ リフトアップし、エンジンを始動してタイヤを空転させたいとき
 - ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - ・ サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - ・ 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - ・ 冠水した道を走行するとき
 - ・ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ・ ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - ・ 洗車機を使用するとき

スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

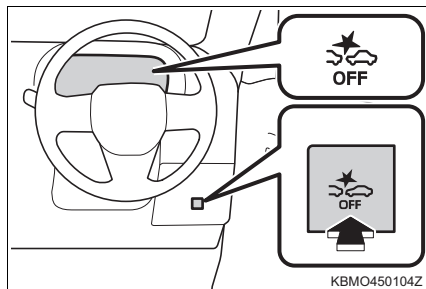
また、マルチインフォメーションディスプレイの設定★または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★・全車速追従機能付 ACC ★を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

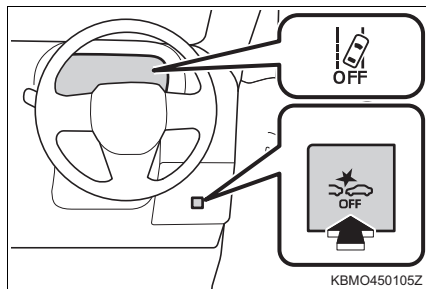


■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報・LKC ★を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■ スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。(→ P. 202)

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- 全車速追従機能付 ACC ★

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC ★について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピッ”	 (点滅)	 前方注意！！	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 	 前方注意！！	衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ、または2次ブレーキが作動



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピッ”と鳴り続ける	 (点滅)	 前方注意!!	衝突回避支援ブレーキ機能の2次ブレーキが作動したあと、車両が停止運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピッ”	 (点滅)	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 (点滅) 	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 (点滅) 	 前方注意!!	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	 (点滅)	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 (点滅) 	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピッ”	 (点滅)		車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動
—	 (点灯)	※2  (点滅)	車線逸脱抑制制御機能が作動
		※3  (点滅)	

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピッ”	  (点灯)	 ※2  (点滅) ※3  (点滅)	手放し運転をしているとシステムが判断しているとき、車線逸脱抑制制御機能が約3分の間に2回以上作動し、手放し注意が行われた

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	  (点灯)	 ※2  (点滅) ※3  (点滅)	手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制制御機能が作動し、手放し運転警告が行われた
“ピピッピピッ”	 (点灯)	 ふらつき注意	ふらつき警報が作動
“ピピッピッ”	 (点滅)	 先行車が発進しました	先行車発進お知らせ機能が作動
—	 (緑色)	—	AHB ★が作動
—	 (緑色)	—	ADB ★が作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
— ※4	—		標識認識機能★が作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC ★ が車間制御モードで作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC ★ が定速制御モードで作動
“ピッ”	—	※5 	全車速追従機能付 ACC ★ 作動時、先行車を認識し た、または認識しな くなった



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	—	  80 km/h (点滅)	全車速追従機能付 ACC ★ の接近警報が作動
—	—	 停車保持中	全車速追従機能付 ACC ★ の停車保持が作動
“ピッ”	OFF (点滅)	  -- km/h (点滅)	全車速追従機能付 ACC ★ の設定条件を満たさずに - SET スイッチ、または + RES スイッチを押した とき



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※ ¹	作動状態
“ピッピッ”と鳴り続ける	OFF (点滅)	  (点滅)	全車速追従機能付 ACC ★の停車保持が自動的に解除
“ピピッ”	OFF (点滅)	  (点滅)	作動条件を満たさなくなり、全車速追従機能付 ACC ★が解除された



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※ ¹	作動状態
“ピピッ”	OFF (点滅)	 先行車無し ACCを停止します  - - km/h (点滅)	先行車を認識しなくなり、全車速追従機能付 ACC ★が解除された
—	 	—	LKC ★が作動
—		 ハンドルを保持してください	LKC ★作動時、手放し運転をしているとシステムが判断し、手放し注意が行われた
“ピピッ”と鳴り続ける		 ハンドルを保持してください	LKC ★作動時、手放し注意が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、手放し運転警告が行われた
“ピピピピピ”と鳴り続ける	—	—	LKC ★作動時、手放し運転警告が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、LKC ★が解除された

※¹ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

※² 全車速追従機能付 ACC 非作動時

※³ 全車速追従機能付 ACC 作動時

※⁴ 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。

※5 先行車を認識したときは先行車表示が表示され、認識しなくなったときは非表示になります。

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。

●フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 148, 149）

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。

- ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。

●事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。

フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。

●ステレオカメラに液体をかけないでください。

●ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。

●ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。

●ステレオカメラを分解しないでください。

●ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。

●ステレオカメラに強い光を照射しないでください。

●ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

●インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。

●インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。

●インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けしないでください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。

●ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

⚠ 警告

■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

- ・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
- ・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 汚れ検知機能について

●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。

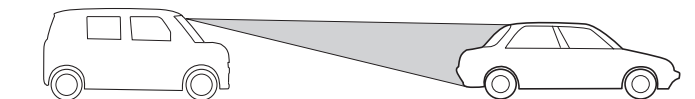
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両 ※1、歩行者 ※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む（人が乗車している場合のみを対象物としています）

※2 昼間、夜間対応



ABCB450201Z

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 92）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 92）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

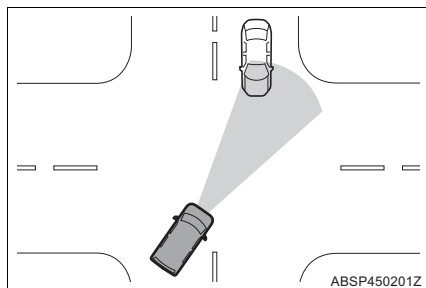
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

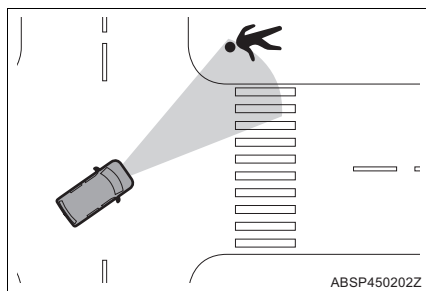
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 108
 - ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 104, 108

警告

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両^{*}や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両^{*}との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 80km/h）を超える場合は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 18）

^{*} 二輪車、自転車を含む

■衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両^{*}や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のすれ具合
- 自車の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、すれや歪みが生じたとき
 - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両^{*}、歩行者に接近するとき
 - ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - ・強い光が車両^{*}や歩行者、路面に反射しているとき
 - ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - ・路面に水たまりや水膜があるとき
 - ・雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき

警告

- ・ 自車や対象物がふらついているとき
- ・ 対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- ・ 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- ・ 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- ・ 対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自車が対向車の進行路に進入している場合
- ・ 対象物が対向車であっても、自車が対向車線に進入している場合
- ・ 前方車両※や歩行者との距離が極端に短いとき
- ・ 自車の前方に車両※や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- ・ 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- ・ 前方車両※の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- ・ 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ほこりなど視界が十分でないとき
- ・ 自車が車線変更を行い、前方車両※のすぐ後ろに接近したとき
- ・ 前方車両※が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- ・ 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ・ 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- ・ 荷台にあまりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- ・ 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- ・ 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- ・ 二輪車が横向きに走行しているとき
- ・ 二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
- ・ 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- ・ 対向車※やバックしてくる車両などのとき
- ・ 車高の低い車両などのとき
- ・ 停車している車両※の前に壁などがあるとき
- ・ 重い荷物を積むなど、前方車両※が傾いているとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- ・ 身長の高い子供や高身長歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- ・ 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- ・ 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- ・ 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ・ ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- ・ 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
- ・ 上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
- ・ 対象物が複数重なっているとき
- ・ 2人以上乗車している自転車

⚠ 警告

- タイヤ径が小さい二輪車[※]や全長が長い二輪車[※]のとき
- 歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
- 二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

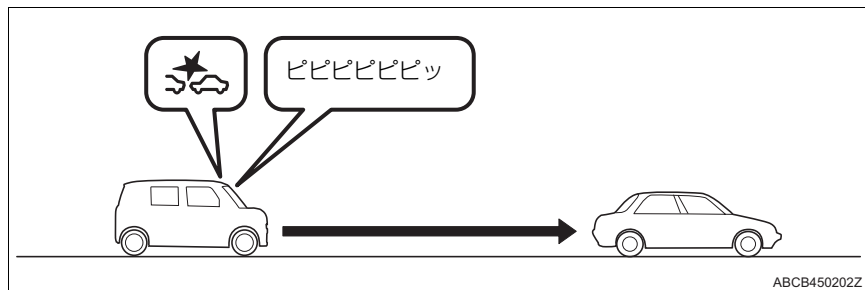
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

① ～ ④ の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

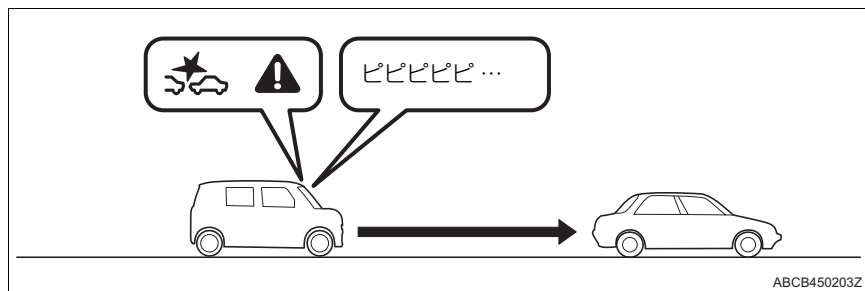
① 衝突警報



前方車両[※]・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 92）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

② 1次ブレーキ

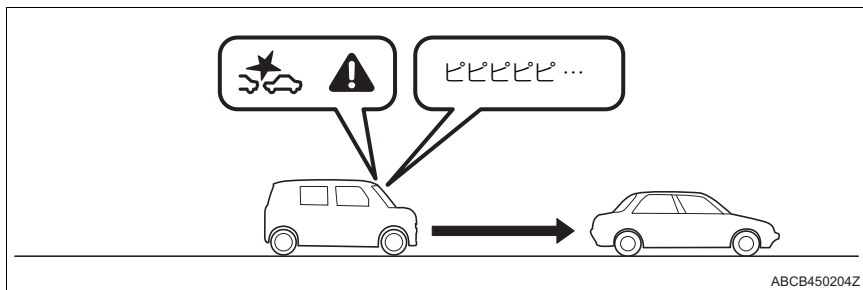


前方車両[※]・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

・ 前方車両[※]・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

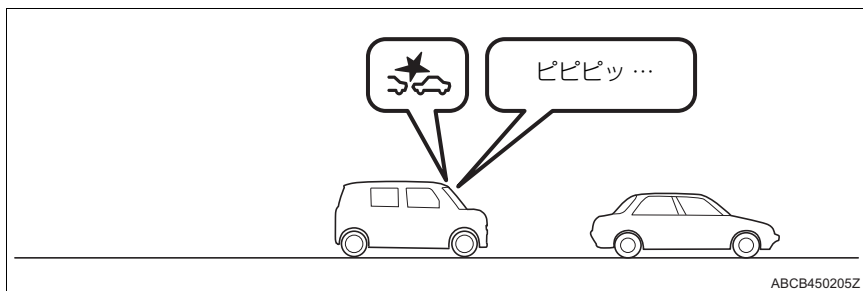
3 2次ブレーキ



前方車両 ※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。※

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリーブ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

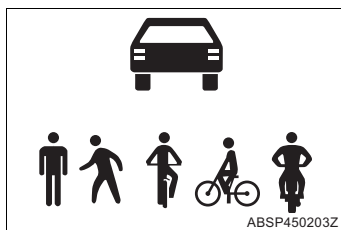
※ アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。

知識

■ ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件 自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯が消灯しているとき
- シフトレバーが P・R 以外のとき

● 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援以外の場合）

機能	対象	作動車速、速度差 ※ ¹
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減ブレーキアシスト ※ ³	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者 ※ ²	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

● 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援の場合）

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両 ※ ⁴	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両 ※ ⁴	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※¹ 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※² 昼間、夜間対応

※³ 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※⁴ 方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■ 衝突回避支援ブレーキについて

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

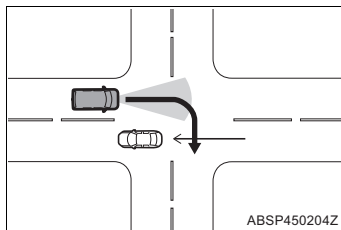
■ 衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

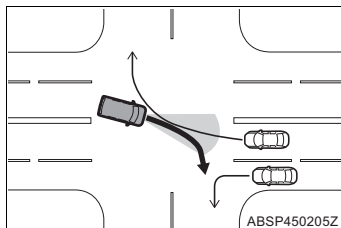
- 左折、または右折している前方車両 ※ がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車 ※ を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 車線変更や右左折している前方車両 ※ などを追い抜くとき
- 右左折待ちの前方車両 ※ などとすれ違うとき
- 前方車両 ※、横断歩行者などの対象物が自車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき



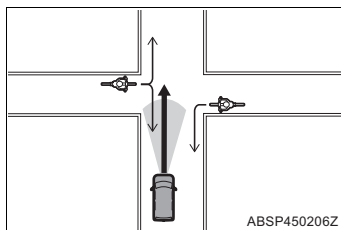
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自転車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき
- 前方の壁に対象物と区別がつきにくい映り込みやペイントがあるとき
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき



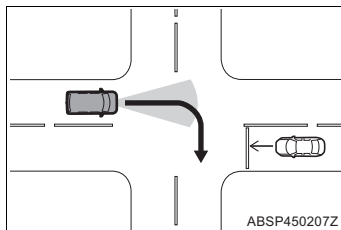
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき



- 車両※、歩行者が自転車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両※などの横を至近距離で通過するときや対向車※が自転車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき



- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンブや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車両※などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※のとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。（→ P. 91）
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。

⚠ 警告

- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 18)

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のすれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スベアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のすれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - ・ 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ・ ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
 - ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - ・ 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
 - ・ 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
 - ・ 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
 - ・ 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）
 - ・ 背の低い障害物

⚠ 警告

- ・ 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- ・ 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- ・ 急に前方に現れたもの
- ・ 車両前方を横切るもの
- ・ 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- ・ 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物

● ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- ・ 動いているもの
- ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- ・ 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたととき
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠ 警告

- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたととき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能

⚠ 警告

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能について

- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は、車線・道路 ※ の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能に頼っていると、車線・道路 ※ の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

車線または道路 ※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱抑制制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制制御機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制制御機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- 方向指示レバーを使用しているとき
- 急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

⚠ 警告

- ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリを取り付けているとき

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・ 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・ 車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - ・ 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - ・ 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - ・ 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - ・ 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
 - ・ 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - ・ 車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - ・ 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - ・ ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・ 分岐・合流路などを走行するとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ カーブの形状が変化するとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさざがらったとき
 - ・ フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・ 先行車との車間距離が短いとき
 - ・ 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
 - ・ ステレオカメラが高温になったとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋳）や置き石などがあるとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき

⚠ 警告

- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 区画線に急に接近する場合
- 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

ふらつき警報

⚠ 警告

■ ふらつき警報について

ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。

4

運
転

先行車発進お知らせ機能

⚠ 警告

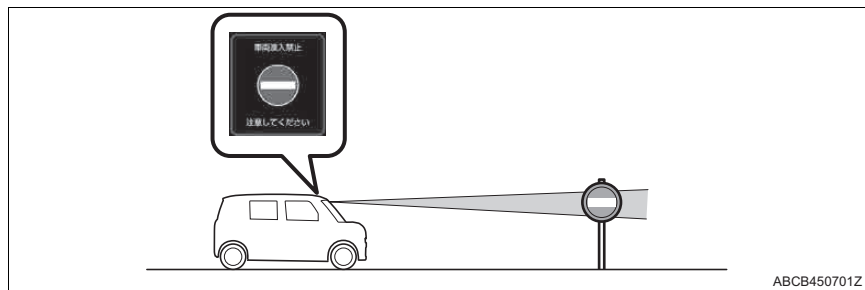
■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイ※に表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。

※ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は、スマホ連携ディスプレイオーディオまたは純正ナビゲーションの画面に表示されます。



⚠ 警告

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

：最高速度

：車両進入禁止

：一時停止

📖 知識

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが「ON」のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 次のいずれかの状態のとき
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★の設定で、「標識認識機能」を ON にしているとき
 - ・ スマホ連携ディスプレイオーディオ※のシステム設定で「車両インフォメーション表示」を ON にしているとき（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

※ 詳しくはディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき



- 車速が次のとき
 - ・ 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
 - ・ 最高速度：0km/h 以上
- シフトレバーが D・S・B のとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

- ▶ 最高速度
 - 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
 - 右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
 - 補助標識（終わり）を認識したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき
- ▶ 車両進入禁止
 - 車両進入禁止標識を通過したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき
 - 方向指示レバーを操作したとき
- ▶ 一時停止
 - 一時停止標識を通過したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- 標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似的標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- 補助標識が設置されている場合
- 電光標識に数字が表示されていない場合
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- ステレオカメラが認識にくい状況（特に次のような場合）
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・ ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
 - ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ 強い光が路面に反射しているとき
 - ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）



- 標識の状態（特に次のような場合）
 - ・ 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
 - ・ 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
 - ・ 標識の向きが変わっているとき
 - ・ 標識が破損しているとき
 - ・ 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
 - ・ 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
 - ・ 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
 - ・ 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
 - ・ 標識が高い位置にあるとき
 - ・ 標識が低い位置にあるとき
 - ・ 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
 - ・ 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
 - ・ 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
 - ・ 標識が自転車から遠く離れた位置にあるとき
 - ・ 小さいサイズの標識のとき
 - ・ 電光標識のコントラストが低いとき
 - ・ 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
 - ・ 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
 - ・ トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき
- ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

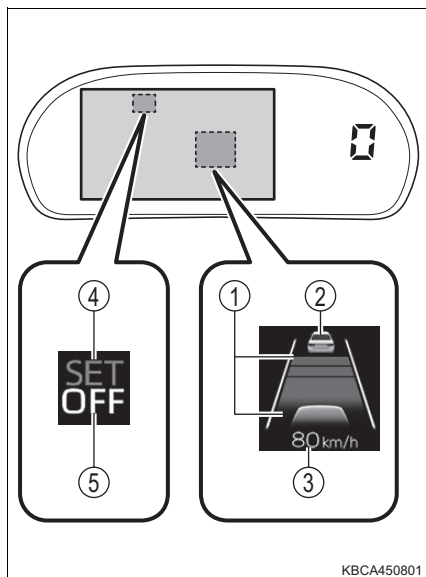
全車速追従機能付 ACC (アダプティブクルーズコントロール) ★

全車速追従機能付 ACC は、アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。
定速制御モードでは、一定の車速で走行を行います。
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

システム構成部品

■ 運転支援表示

- ① 設定車間
設定された車間距離を表示します。
- ② 先行車表示
車間制御モード作動中に、先行車を認識しているとき表示されます。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 接近警報 (→ P. 125) が作動したとき
 - ・ 先行車を認識しなくなり、制御が自動的に解除されたとき
- ③ 設定車速
設定された車速を表示します。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 制御が自動的に解除されたとき
 - ・ 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件 (→ P. 128) を満たさずに - SET スイッチ、または + RES スイッチを押したとき
- ④ ACC SET 表示灯
車間制御モード、または定速制御モードが作動しているとき表示されます。
- ⑤ ACC OFF 表示灯
機能停止により、作動できないとき点灯します。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 制御が自動的に解除されたとき
 - ・ 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件 (→ P. 128) を満たさずに - SET スイッチ、または + RES スイッチを押したとき

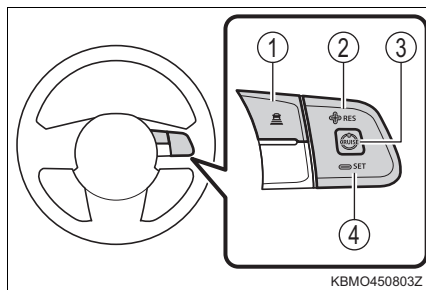


4

運転

■ 操作スイッチ

- ① 設定車間切り替えスイッチ
- ② + RES スイッチ
- ③ CRUISE スイッチ
- ④ - SET スイッチ



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 全車速追従機能付 ACC は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- 設定車速は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定車速の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付 ACC を使わないときは CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- 全車速追従機能付 ACC を使用するときは、車間制御モード、定速制御モードのどちらのモードが選択されているかをメーター内の表示灯で必ず確認してください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見運転やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、先行車への追突を防止する機能ではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC の状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 先行車を認識していても速度差が大きいきや、急減速したとき
 - ・ 先行車に追従しゆるやかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき
- 料金所や渋滞などの最後尾で停止中の車両に対しては減速しないことがあります。十分注意してください。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
- 定速制御モードでは、接近警報は作動しません。

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 路面または壁面の模様・ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似ている場合、ブレーキ制御や接近警報が作動する場合があります。
- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 車両の状態（積載量、乗員など）
 - ・ 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - ・ 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - ・ エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
 - ・ 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - ・ 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 定速制御モードを使用するときは、十分な車間距離を取ってください。
- 定速制御モードでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

■全車速追従機能付 ACC を使用してはいけない状況

次の状況では、全車速追従機能付 ACC を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 接近警報が頻繁に鳴るとき
- 歩行者や自転車などが混在している道
- 交通量の多い道
- 一般道（自動車専用道路以外）
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 上り／下り坂で勾配変化が激しい坂
 - ・下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
 - ・急な上り／下り坂では、停車保持できない場合があります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、車線が極端に近い道
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- 先行車との位置が横にずれているとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、ステレオカメラが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルで加速）してください。

- 他車が急に割り込んできたとき
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 先行車が低速で走行中のとき
- 先行車が背景と似た色合いで区別ができないとき
- 先行車が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいます
- 先行車が路面の水たまりの付近にいます（まわりの風景が水たまりに映り込むなど）
- 先行車が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 先行車と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 先行車が次のような車両のとき
 - ・後ろ部分が小さ過ぎる車両（荷物を積んでいないトレーラーなど）
 - ・荷台にあおりが無い空荷のトラックなど
 - ・後端から積荷が飛び出している車両など
 - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
 - ・バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - ・リヤタイヤから車両後端までが長い車両
 - ・車高が極端に高い車両
 - ・車高の低い車両
 - ・背面が縦縞、檻、タイル柄など、連続する模様になっている車両

警告

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 自転車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行または停車しているとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 自転車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- 夕方、朝方の薄暗いとき
- 自転車バンパーの近い位置に物体があるとき
- カーブやカーブの出入り口付近、車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自転車の位置が一定でない場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき
- 白（黄）線がない道路や、白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくい道路を走行するとき
- 上り坂から平坦な道または下り坂に変わるとき
- 下り坂から平坦な道または上り坂に変わるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

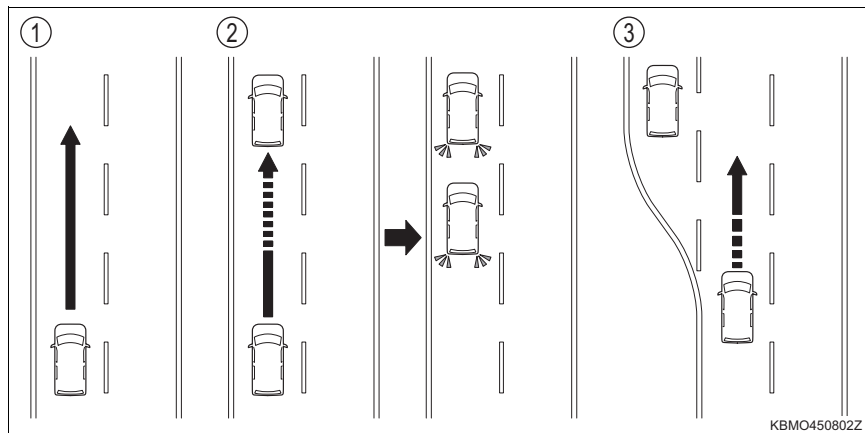
車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、ステレオカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

また、設定車間切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。



① 定速走行：先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

約 30km/h 未満では前方に車両がない場合使用できません。

② 減速走行 — 追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。

十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（停車保持）（→ P. 125）。

③ 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行に戻ります。

車速を設定する（車間制御モード）

① CRUISE スイッチを押して、車間制御モードでシステムを ON にする

- ACC 表示灯が点灯します。

- 車間設定が表示されます。

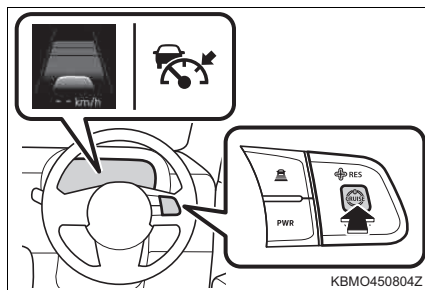
- 設定車速が“— km/h”と表示されます。

システムを OFF にするには再度 CRUISE スイッチを押します。

CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しすると定速制御

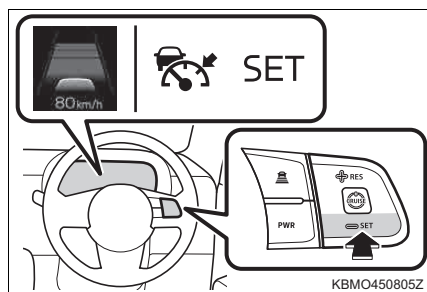
モードでシステムが ON になります。（→ P. 126）

車間制御モードでシステムを ON にすると、LK にも ON になります。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、－ SET スイッチを押す
設定车速が表示され、制御を開始します。
スイッチを離れたときの车速で設定されます。

- ACC SET 表示灯が点灯します。
- 設定车速は 30km/h から設定できます。



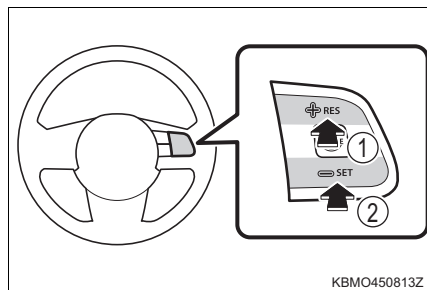
設定车速を変える（車間制御モード）

設定车速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋ RES スイッチまたは－ SET スイッチを押す
スイッチを操作することにより設定车速の表示が変わります。

- ① 速度を上げる（停車保持時を除く）
- ② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の
速度で手を離す



設定车速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間、5km/h きざみで変化

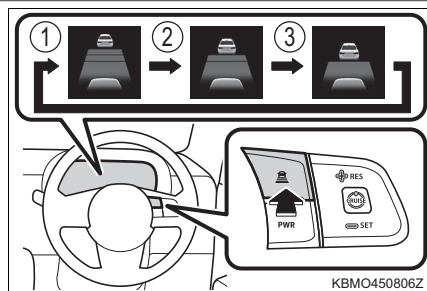
エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速制御モードに切り替えるたびに設定车速はリセット
されます。

設定車間を切り替える（車間制御モード）

設定車間切り替えスイッチを押すごとに次のよう
に設定車間が切り替わります。

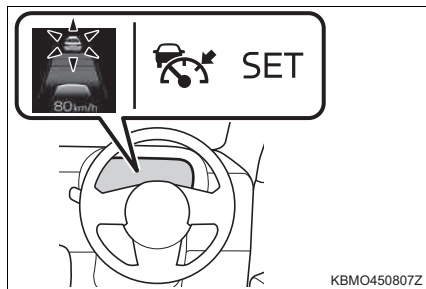
- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速
制御モードに切り替えるたびに設定車間は①に戻
ります。



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、先行車表示の点滅とブザー、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージで運転者に注意を促します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 接近警報が作動しないとき

次のような場合は接近警報が作動しないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車のほうが速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 車間制御開始直後
- アクセルペダルを踏んだとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に近付いたとき

車線変更時の補助機能

約 70km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

停車保持について（車間制御モード）

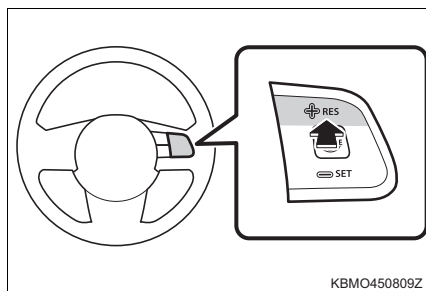
先行車が停止したときは、続いて停止します。

停車保持を最長約 3 分間継続したあと、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。停車保持中にシステムが自動解除されたときに停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。（→ P. 128）

■ 停車保持から追従走行に復帰させるには

先行車の発進後、+ RES スイッチを押すと追従走行に戻ります。

アクセルペダルを踏んでも追従走行に戻ります。



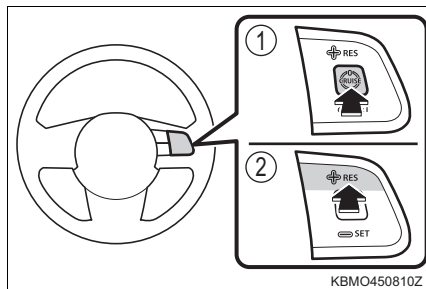
制御を解除する・復帰させる（車間制御モード）

① 制御を解除するには、CRUISE スイッチを押す

- ・ブレーキペダルを踏んだときも解除されず（車間制御モードの停車保持中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。
- ・エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止したときも自動的に解除されず。
- ・オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 47）が点灯しているときは、停車保持中にACCを解除すると、オートブレーキホールド機能が作動します。

② 制御を復帰するには、CRUISE スイッチを押してシステムをONにした状態で+RESスイッチを押す

- ・ブレーキペダルを踏んで制御を解除した場合は、CRUISE スイッチの操作は不要になります。



■ 復帰できないとき

次の場合は、制御を復帰させることができません。

- 先行車を認識していない状態で車速が約 30km/h 未満のとき
- CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- システムの自動解除条件（→ P. 128）のいずれかを満たしているとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂を走行しているときは、設定車速を超えて走行することがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。

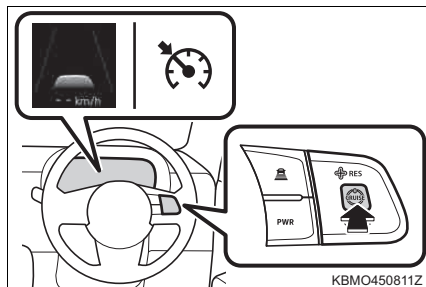
車速を設定する（定速制御モード）

① CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にする

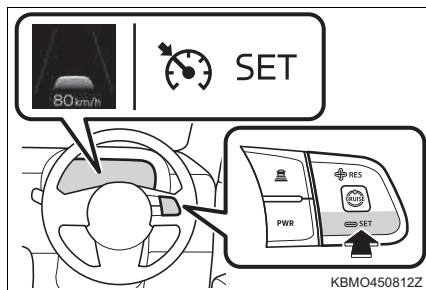
クルーズコントロール表示灯が点灯し、設定車速が“— km/h”と表示されます。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

システムを OFF にするには再度 CRUISE スイッチを押します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、－ SET スイッチを押す
設定车速が表示され、制御を開始します。
スイッチを離したときの车速で設定されます。
ACC SET 表示灯が点灯します。
設定车速は 30km/h から設定できます。



設定车速を変える（定速制御モード）

設定车速を変えるには、次の方法があります。

- アクセルペダル、またはブレーキペダルを操作する
- 操作スイッチを押す

■ アクセルペダル・ブレーキペダル操作で変える

設定车速を上げるには、アクセルペダルを踏み速度を上げ、希望の速度になったら－ SET スイッチを押します。

設定车速を下げるには、ブレーキペダルを踏み速度を下げ、希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、－ SET スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏むと、全車速追従機能付 ACC が解除され、ACC SET 表示灯が消灯します。

スイッチを押したときの车速に設定され、新しく設定车速が表示されます。

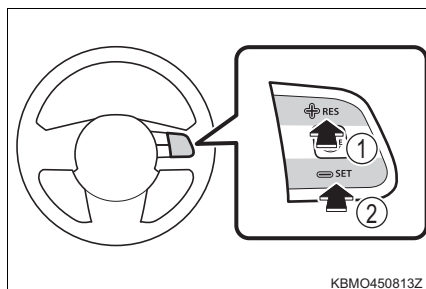
■ 操作スイッチで変える

設定车速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋ RES スイッチまたは－ SET スイッチを押す
スイッチを操作することにより設定车速の表示が変わります。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定车速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間連続して変化

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または車間制御モードに切り替えるたびに設定车速はリセットされます。

車間制御モードと同じ方法で解除・復帰ができます。（→ P. 126）



知識

■ 設定条件について

次の条件をすべて満たしているとき、全車速追従機能付 ACC の制御を開始できます。

- 車速が 0km/h 以上（先行車がないときは約 30km/h 以上）のとき（車間制御モード）
- 車速が約 30km/h 以上のとき（定速制御モード）
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- 停車中の場合は、次のすべての条件を満たしているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる、または、オートブレーキホールド機能で停車している
 - ・ 運転席シートベルトを着用している
- VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC 表示灯が点灯しているとき（車間制御モード）
- クルーズコントロール表示灯が点灯しているとき（定速制御モード）
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（車間制御モード）
- 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（定速制御モード）
- ACC 警告灯が消灯しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき（停車中を除く）
- シフトレバーが D のとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- 勾配が急な坂道でないとき
- パーキングブレーキ表示灯が消灯しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯しているとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。

加速後、車速が設定速度に戻ります。

ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車速設定後の減速について

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。

- このとき、全車速追従機能付 ACC は解除されます。
- 設定車速が “— km/h” と表示され、ACC SET 表示灯が消灯します。
- 設定車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、— SET スイッチまたは + RES スイッチを押します。

■ システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。

全車速追従機能付 ACC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、— SET スイッチ、または + RES スイッチを押して復帰させてください。条件が解消されても設定できないときは、全車速追従機能付 ACC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 車速が約 25km/h 未満で追従走行中に、先行車を見失ったとき
- 先行車を認識していない状態で、車速が約 25km/h 未満になったとき
- エンジン冷却水温が高過ぎるとき



- 停車保持が作動しているときに、次のいずれかの状態になったとき
 - ・ 運転席ドアが開いたとき
 - ・ 運転席シートベルトを外したとき
 - ・ 全車速追従機能付 ACC により車両が停止したあと、約 3 分経過したとき
 - ・ 先行車を見失ったとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- スマートアシスト OFF スイッチを押してスマートアシストを OFF にしたとき
- ACC OFF 表示灯が点灯したとき
- スマートパノラマパーキングアシスト★を作動させたとき
- VSC または TRC が作動したとき
- パーキングブレーキ表示灯が点滅しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しているとき
- LKC 警告灯が点灯しているとき
- 手放し運転に対する注意喚起が行われてもハンドル操作せず、LKC が自動的に解除されたとき（全車速追従機能付 ACC を復帰させるには、CRUISE スイッチを押してシステムを ON にしてください）
- 次のいずれかのとき（このとき、+ RES スイッチを押しても復帰できません）
 - ・ 先行車を認識していない状態で、車速が設定車速を大きく下回ったとき
 - ・ 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき（車間制御モード）
 - ・ 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき（定速制御モード）
 - ・ ACC 警告灯が点灯したとき
 - ・ 勾配が急な坂道るとき
 - ・ 衝突回避支援 ブレーキ機能が作動したとき
 - ・ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動したとき
- プラスサポート（販売店オプション）の急アクセル時加速抑制（→ P. 143）が作動したとき

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 車間制御モードでは、先行車に合わせた車速で制御されるため、+ RES スイッチを押して、先行車の速度以上に設定車速を上げて加速しません。ただし、設定車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速は運転支援表示画面の表示を確認しながら変更してください。
- 車間制御モードを設定中にアクセルペダルを踏んでいるときは、車間制御モードによる接近警報を行わず、ブレーキもかけません。
ただし、このときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能による警報や緊急ブレーキが作動することがあります。
- 通常、追従走行中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。ただし、車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどで先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。
- 定速走行中であっても、周囲の状況や車両の状態によっては、設定車速通りに走行できないことがあります。

LKC（レーンキープコントロール）★

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- LKC を過信しないでください。LKC は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を LKC に頼っていると、事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩を取ってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

■ LKC を使用してはいけない状況

次の状況では、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定で LKC を OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 工事区間を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリを取り付けているとき

■ LKC が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、LKC が適切に作動しないことがあります。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・ 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・ 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - ・ 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - ・ 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - ・ 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - ・ 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
 - ・ 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
 - ・ 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - ・ ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・ 分岐・合流路などを走行するとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
 - ・ ガードレールの影などがあるとき
 - ・ 区画線が二重に描かれているとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・ 先行車との車間距離が短いとき

⚠ 警告

- ・ 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ・ ステレオカメラが高温になったとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイや置き石などがあるとき
- 車線が黄色のとき（白線に比べて認識率が低下することがあります）
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 車線以外の線が路面に描かれているとき

アイドリングストップシステム (eco IDLE)

⚠ 警告

■ eco IDLE が作動しているとき

- eco IDLE によるエンジン停止中（eco IDLE 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（オートブレーキホールド機能★による停車中と全車速追従機能付き ACC ★の停車保持中は除く）
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ ブレーキペダルから足を離す（オートブレーキホールド機能★による停車中と全車速追従機能付き ACC ★の停車保持中は除く）
 - ・ 運転席ドアを開ける
 - ・ 運転席シートベルトを外す
- エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。
お車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。

⚠ 警告

- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

コーナーセンサー

📖 知識

■ ブザーが「ビビビ、ビビビ、ビビビ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方 1 か所表示されるか、前方 2 か所または後方 2 か所同時に表示されたときは *

- コーナーセンサーの機能が低下しています。
コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。
- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

* 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含まれます。

⚠ 警告

■ コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けしないでください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場での点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・ 背の低い障害物のとき
 - ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき

⚠ 警告

- ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
- ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
- ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

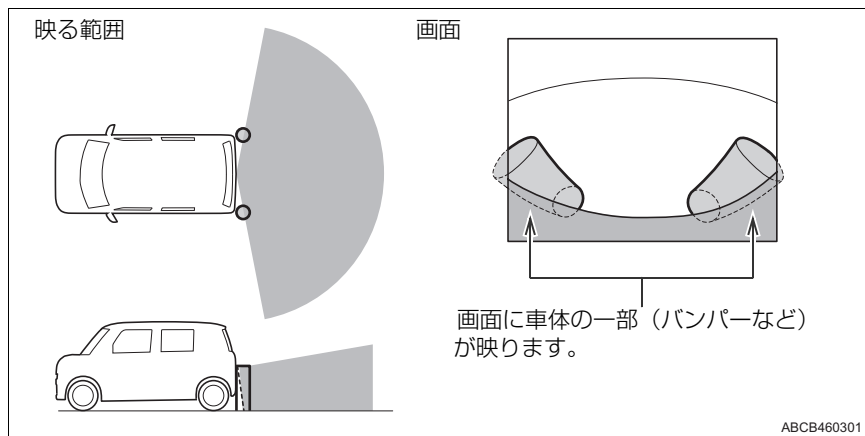
バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



- 車や路面の状況により、映る範囲は異なる場合があります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

⚠ 警告

■ バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・タイヤチェーン、スベアタイヤを使用しているとき
 - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・坂道など平坦でない路面
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。また、レフト＆ライトサイドビューやレフトサイド＆リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

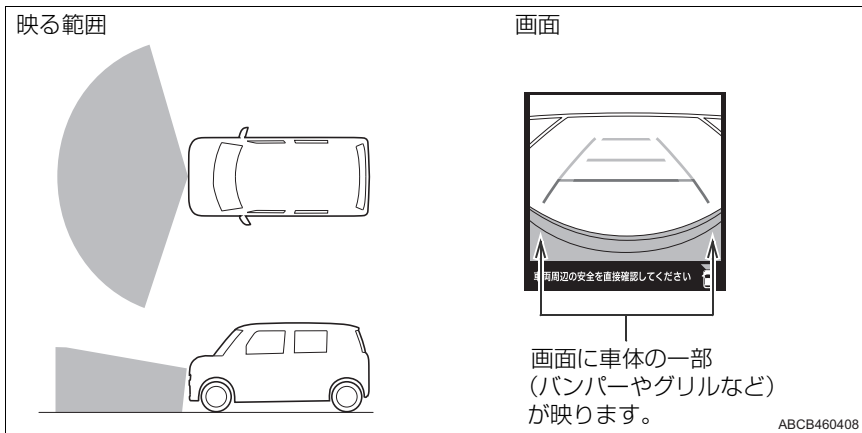
画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→ P. 135)

詳しくはディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

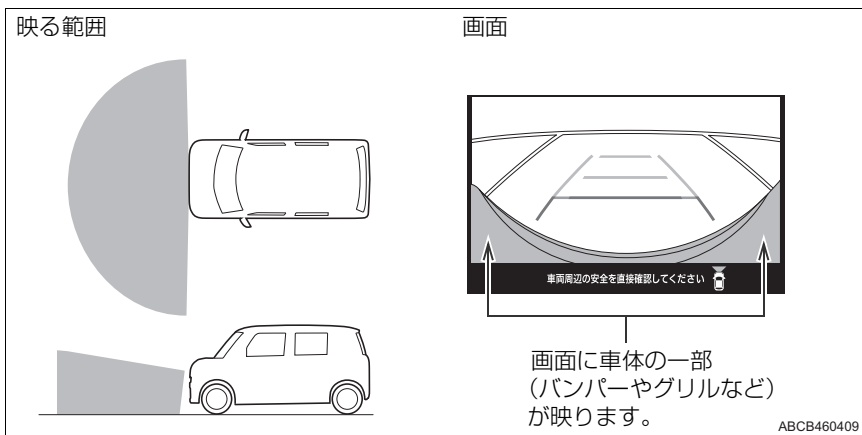
本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

■ 画面の映る範囲について

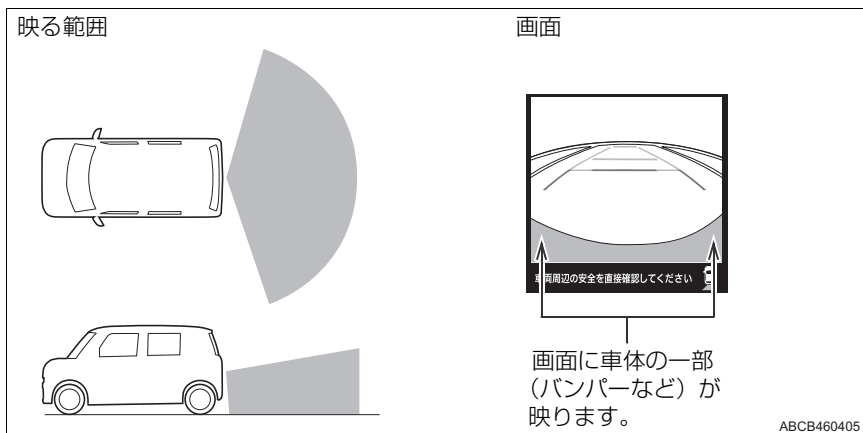
▶ フロントビュー



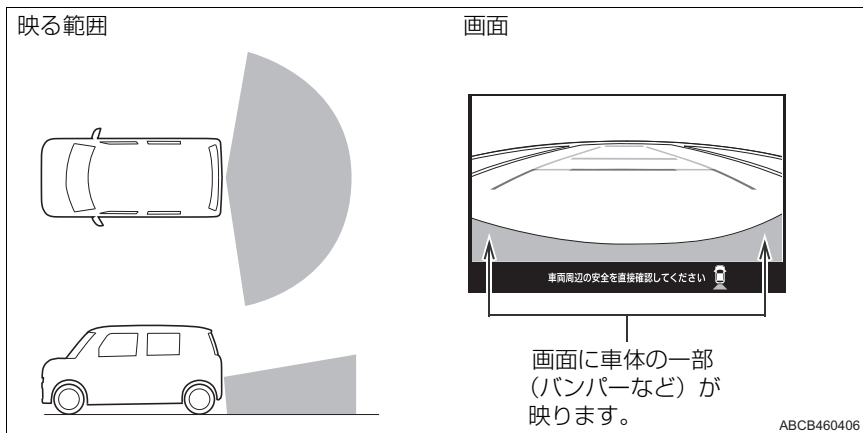
▶ フロントワイドビュー



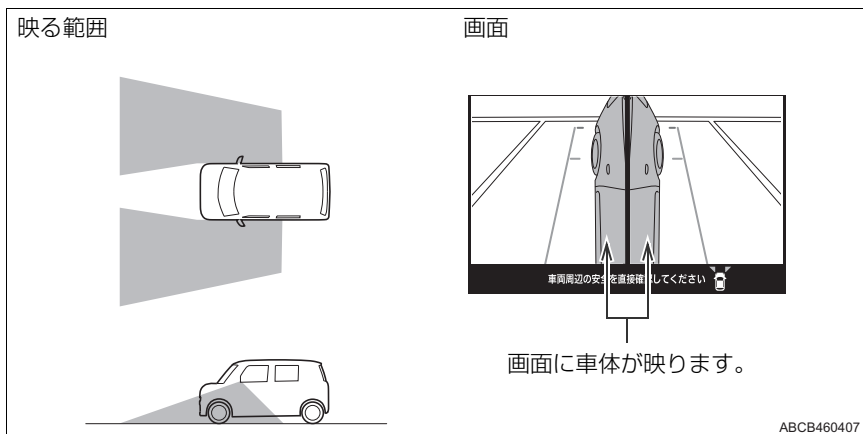
▶リヤビュー



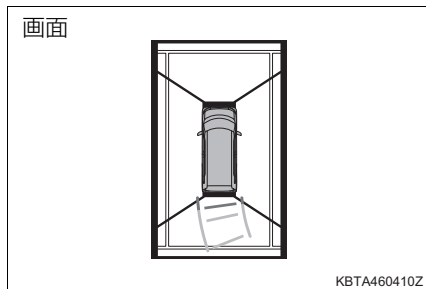
▶リヤワイドビュー



▶サイドビュー



▶ トップビュー



- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

⚠ 警告

■ パノラマモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スベアタイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
 - ・ ドアミラーを格納しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

スマートパノラマパーキングアシスト★

パノラマモニターを用いて駐車を補助するシステムです。パノラマモニターの項目の内容も併せてお読みください。(→ P. 134)

ハンドルを自動で操作することにより、設定した目標駐車枠への駐車を補助します。(シフトレバー操作および、前進・後退時の速度調整は自動で行いません)

- スマートパノラマパーキングアシストは駐車時のハンドル操作をアシストするものであり、自動駐車システムではありません。周囲の安全確認と、車両のシフトレバー操作、アクセルペダル、ブレーキペダル操作は運転者が行ってください。
- 設定した目標駐車枠に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車枠までの距離などにより、設定した目標駐車枠に到達できない場合があります。

⚠ 警告

■スマートパノラマパーキングアシストについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スマートパノラマパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながらゆっくり前進、または後退してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで停車を行いません。目標駐車枠、前進開始枠、後退開始枠では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで障害物検知を行いません。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムでシフトレバー操作を行いません。アシストを終了したあとは、必ず運転者自らお車を停止しシフトレバーをPにしてください。
- スマートパノラマパーキングアシストによるアシストが必要なくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。システムが作動状態のままだと自動でハンドルが操作され、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 画面だけを見ながら前進、または後退することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあり、お車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で前進、または後退してください。
- 駐車枠のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
 - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。
 - ・緊急時以外は自動で回転しているハンドルを握らないでください。
- 前進、または後退するときは、車速が出過ぎないように注意しながらブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、ゆっくり前進、または後退してください。
- システムが目標駐車枠まで移動ができないと判断した場合、アシストを中止することがあります。運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車枠にお車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 障害物などがあり後退開始枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、シフトレバーで進行方向を切り替えてください。システムが経路の再計算を行います。
 - ・周囲の状況によって、経路の再計算が行われず、「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われるときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。

⚠ 警告

● 障害物などがあり目標駐車枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んでお車を停止させ、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の〔中止〕を選択してアシストを中止し、運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。

● 次のような状況では使用しないでください。

- ・ 人や車両などの通行量が多い場所
- ・ 停車および駐車が禁止されている場所
- ・ 車両が入らないほど狭い場所
- ・ 駐車場以外の場所
- ・ 駐車枠が斜めになっている場所
- ・ 通路幅が狭い（約 4.0m 以下）場所
- ・ 穴や溝などがあるような場所
- ・ 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
- ・ 急な勾配のある場所
- ・ 砂地や砂利道などの整備されていない路面
- ・ 雪や凍結などでスリップしやすい路面
- ・ 機械式駐車場や駐車場所に障害物などがある場所
- ・ ダイハツ純正品以外のタイヤを装着しているとき
- ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
- ・ けん引フックなどの車両の全長や幅が変化するものを取り付けているとき
- ・ カメラが正常に取り付けられていないとき
- ・ カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- ・ 画面に映し出されている映像が汚れや太陽光、影などで見にくいとき
- ・ いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
- ・ ドアミラーを格納しているとき
- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- ・ 周囲の車両が駐車枠からはみ出しているとき
- ・ 駐車動作を行う範囲、駐車枠内、枠線上に障害物があるとき
- ・ 車両を改造・架装したとき

● アシスト中にガイダンスが行われなくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の〔中止〕を選択してアシストを中止し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

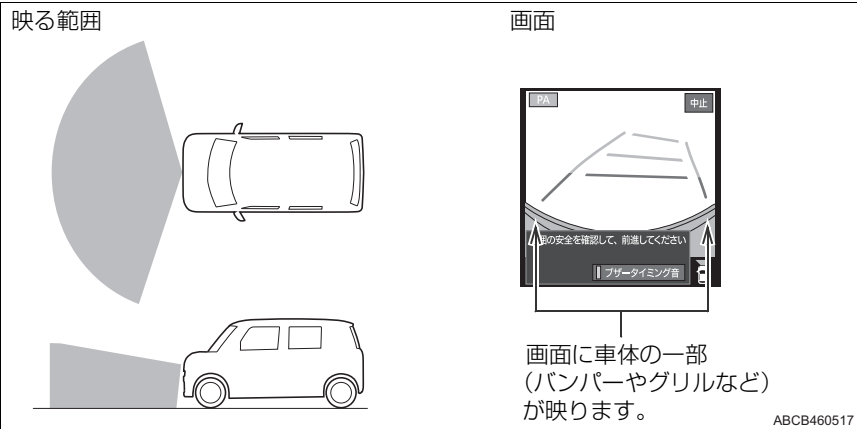
■ パノラマモニターについて

→ P. 137

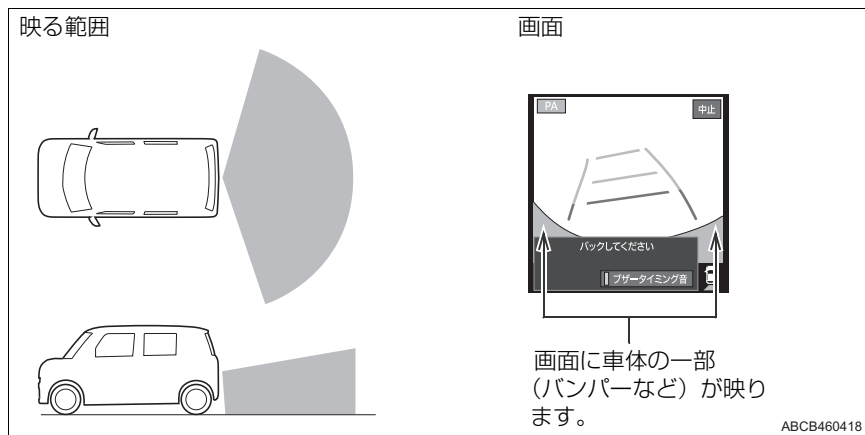
使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

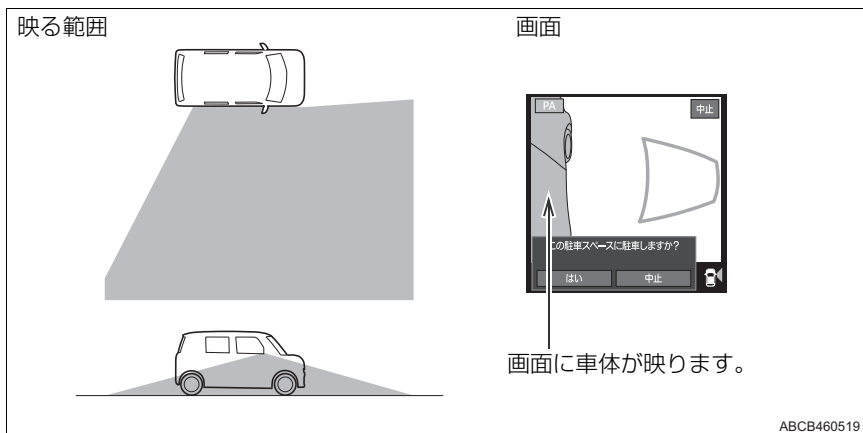
▶ フロントビュー



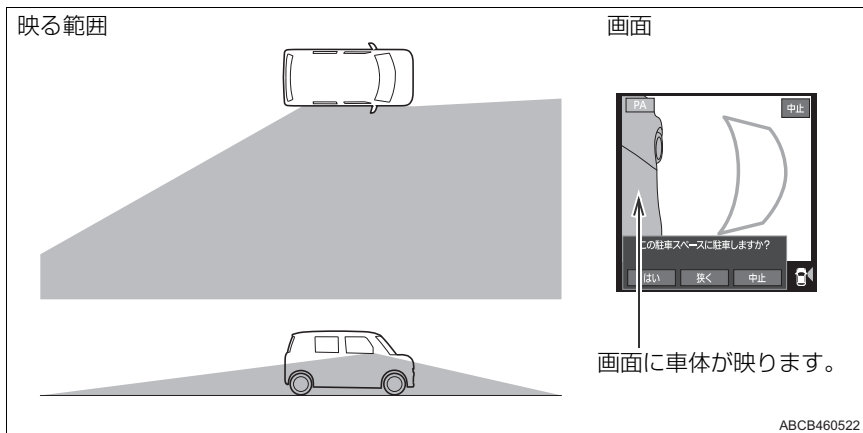
▶ リヤビュー



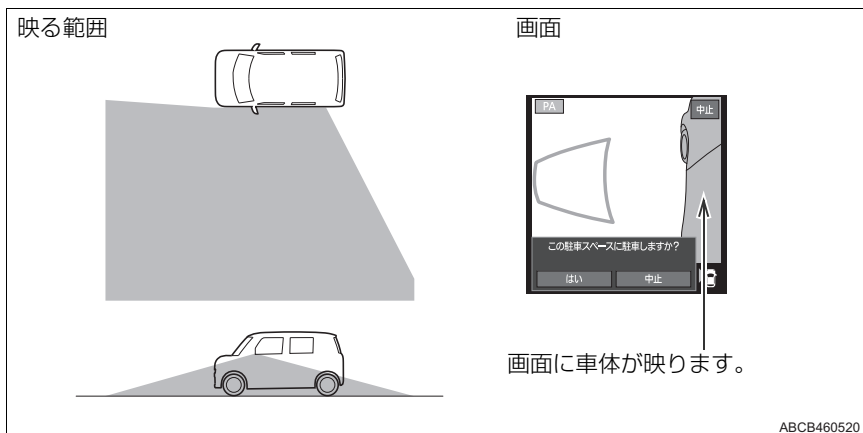
▶ライトサイドビュー（並列駐車時）



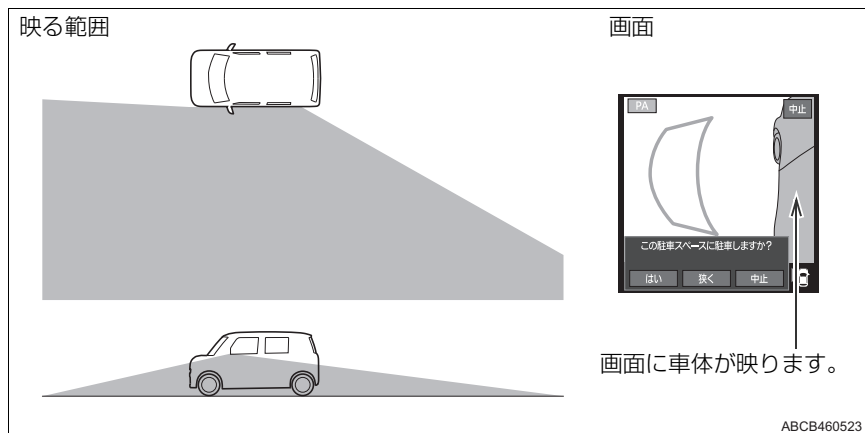
▶ライトサイドビュー（縦列駐車時）



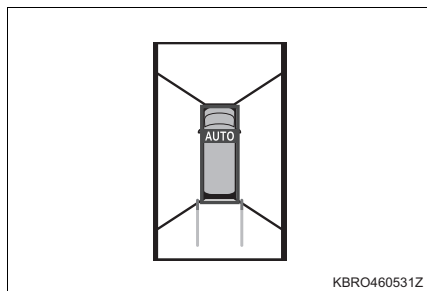
▶レフトサイドビュー（並列駐車時）



▶ レフトサイドビュー（縦列駐車時）



▶ トップビュー



- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

プラスサポート※（販売店オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、専用の電子カードキー（プラスサポート用電子カードキー、以下、「サポキー ※」といいます）が必要です。

※ “プラスサポート”、“サポキー” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子カードキーを携帯しているときは、プラスサポートが作動しません。
- サポキーと標準装備の電子カードキーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→ P. 47）プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制中も車両は動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするために、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。ただちにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ CTA（コーナリングトレースアシスト）★

旋回時に、車両が外側にふくらんでいると検知したとき、ブレーキ制御を内輪に行うことで旋回性能を高め、コーナリングをアシストします。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD ★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。滑りやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシスト

→ P. 89

◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにしてお車と安全な車間距離を取ってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ CTA の効果を発揮できないとき

CTA を過信しないでください。すべての走行状況に応じて効果を発揮するわけではありません。常に安全運転を心がけてください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル (→ P. 144) が作動しないことがあります。

■ VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ フルタイム 4WD について★

- このお車の 4WD (フルタイム 4WD) は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。

- 脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン (溝模様) のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。(→ P. 225)

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD ★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転

警告

■ ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン …… 148

オートエアコン …… 149

シートヒーター …… 150

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ …… 150

5-3. 収納装備

収納装備一覧 …… 151

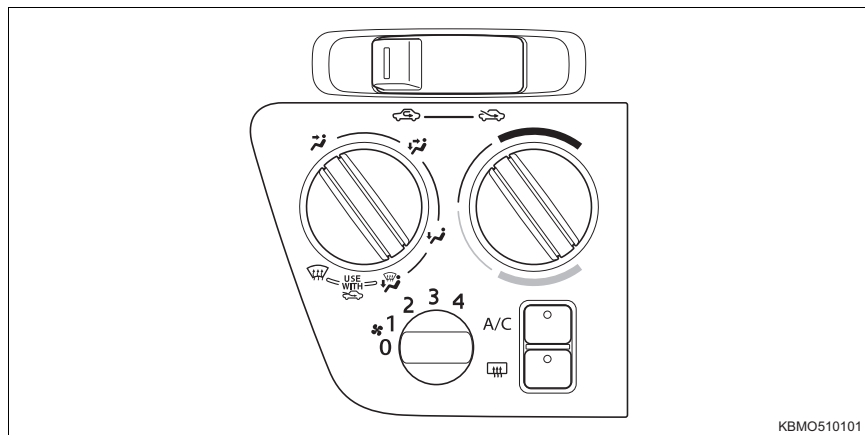
ラゲージルーム内装備 …… 152

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 …… 152

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン★



その他の機能

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

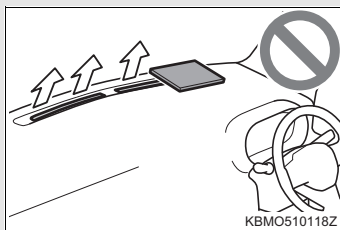
吹き出し口切り替えダイヤルを  に回し、内外気切り替えレバーを  に操作する

A/C  を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で動作させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを  または  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

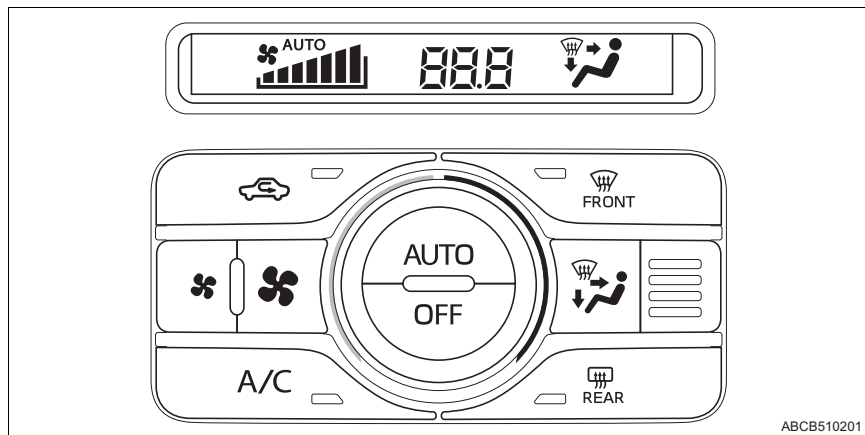


■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



その他の機能

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

  を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度   を押すと、前のモードに戻ります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は **A/C**  を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- **A/C**  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

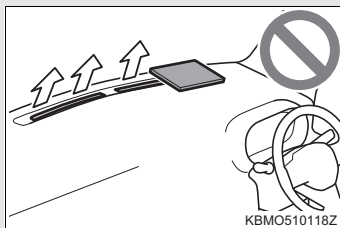
警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、  を押さないでください。また、吹き出し口を  に切り替えしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

シートヒーター★

⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ★

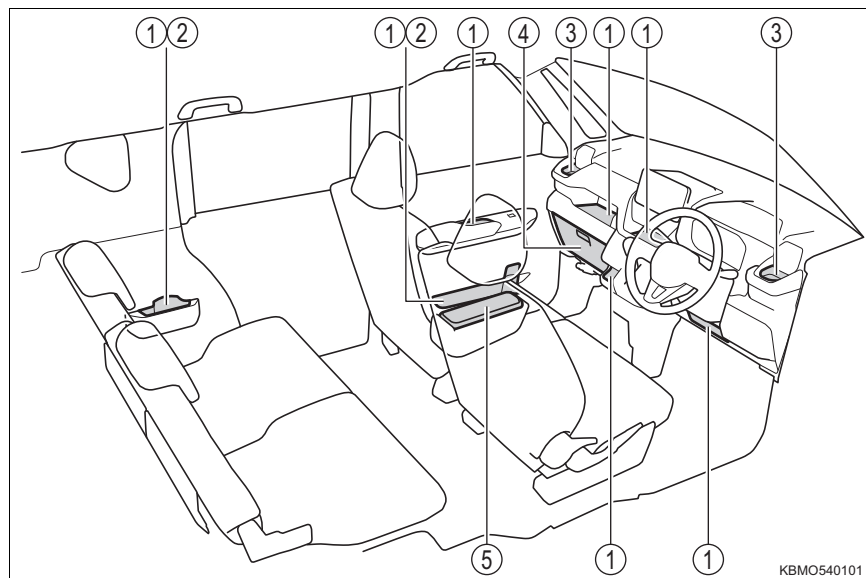
⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

5-3. 収納装備

収納装備一覧



- ① オープントレイ (→ P. 152)
- ② ボトルホルダー (→ P. 152)
- ③ カップホルダー (→ P. 152)

- ④ グローブボックス
- ⑤ アームレストボックス★

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる
- 走行中にものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カップホルダー／ボトルホルダー

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイ

⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

⚠ 警告

■デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指を挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備

サンバイザー

⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあります。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあります。
- 走行中はパニティミラーを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アームレスト★

⚠ 警告

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

USB ソケット (充電用) ★

⚠ 警告

- USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

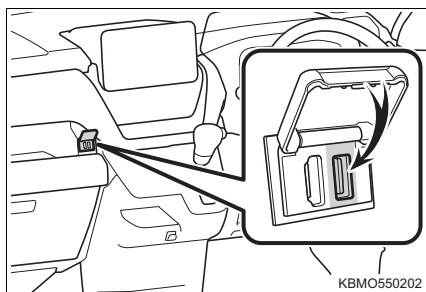
USB ソケット (通信用) ★ / HDMI 端子 ★ ※

※ “HDMI” は HDMI Licensing Administrator, Inc. の登録商標です。

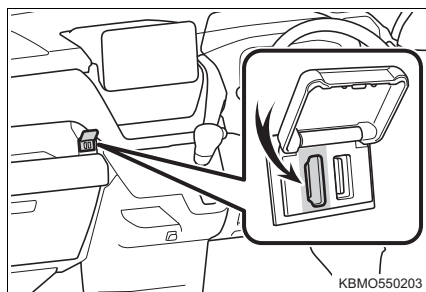
スマホ連携ディスプレイオーディオと機器を接続するために使用してください。

詳しくは、スマホ連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

▶ USB ソケット (通信用)



▶ HDMI 端子



⚠ 警告

- USB ソケット、HDMI 端子に指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

格納式アシストグリップ

⚠ 警告

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ	156
内装のお手入れ	156

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	156
ウォッシャー液の補充	157
タイヤについて	157
タイヤの交換	159
タイヤ空気圧について	163
キーの電池交換	163
ヒューズの点検・交換	166
電球（バルブ）の交換	166

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ

警告

■ 洗車をするとき

- エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。
- 下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ アルミホイール★にワックスをかけをするときは

ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

内装のお手入れ

知識

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 21)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能なくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット

警告

■ 走行前の確認

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジン始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

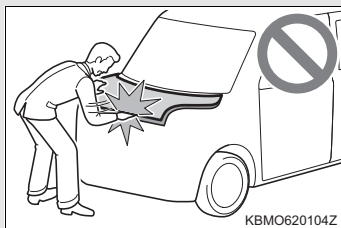
また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



ウォッシャー液の補充

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかるると出火するおそれがあり危険です。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

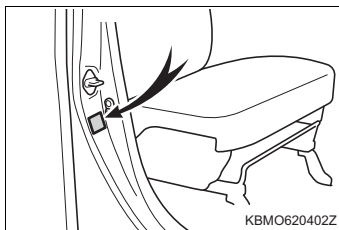
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
155/65R14 75S	240 (2.4)	240 (2.4)
165/55R15 75V		

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
 - メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
 - サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
 - ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
 - 他車で使用していたタイヤを使用しない
- 以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横滑りする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 162）テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

⚠ 警告

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの交換

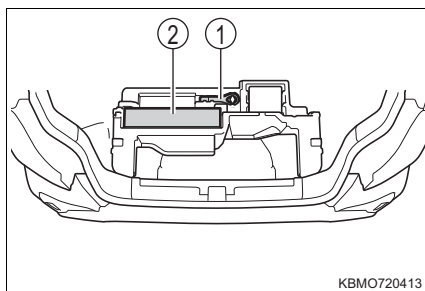
ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
この車両には、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

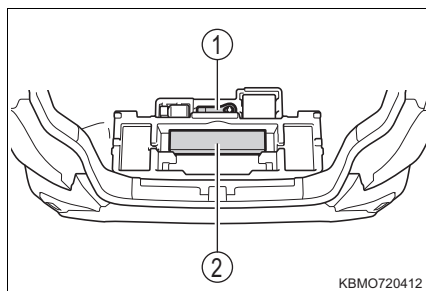
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

工具※とジャッキ※の位置

▶ 2WD 車



▶ 4WD 車



① けん引フック

② 工具箱※

※ ダイハツサービス工場で購入することができます。
(ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ)

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

⚠ 警告

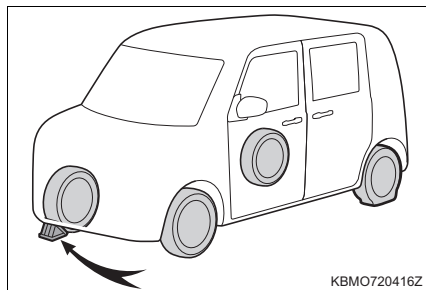
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

- 1 リヤシートをいちばん前までスライドする
- 2 カバーとデッキボードを上げ、ジャッキと工具を取り出す (→ P. 159)

タイヤの交換

- 1 輪止め※をする



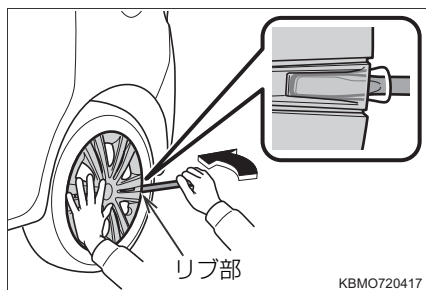
※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

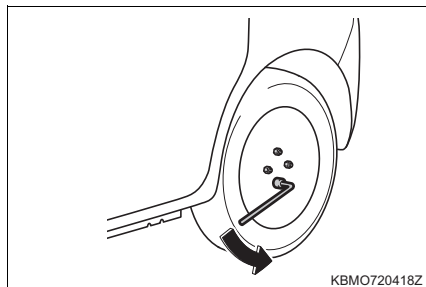
- 2 ホイールキャップを外す※

※ スチールホイールのみ

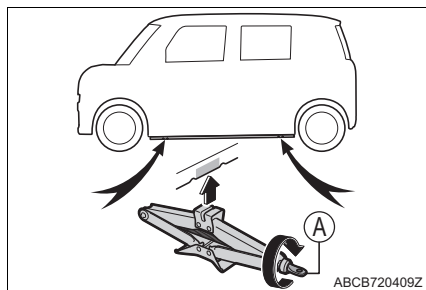
- ・ 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ・ ジャッキハンドルを穴の開いていない部分 (リブ部) に差し込んで外します。
- ・ 勢いよく外れることを防ぐため、片手でホイールキャップを支えてください。



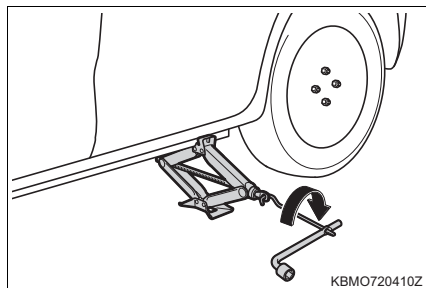
- 3 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



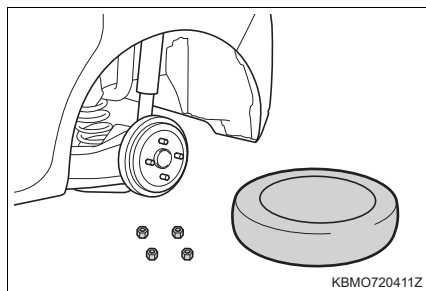
- 4 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる
ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



- 6 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



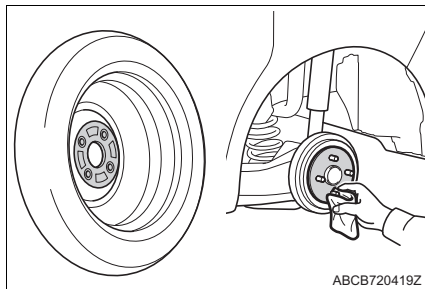
警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ネジ部やナットのテーパー部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

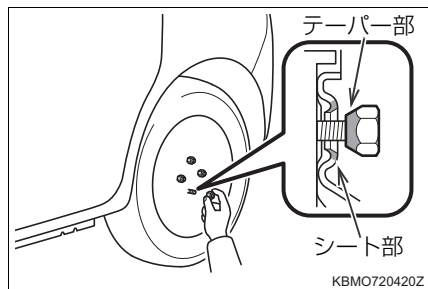
タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。

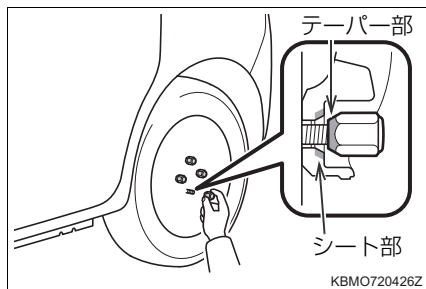


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

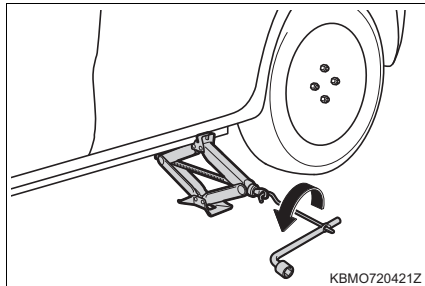
▶ スチールホイール装着車



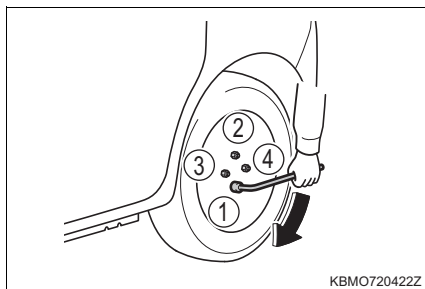
▶ アルミホイール装着車



- 3 車体を下げる



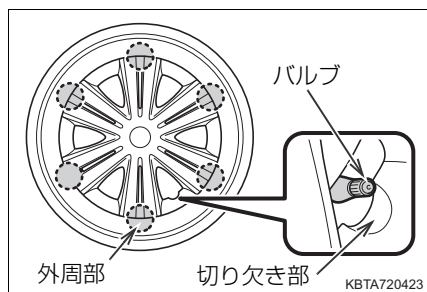
- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



- 5 車両に装着されていたホイールに戻したときは、ホイールキャップを取り付ける※

※ スチールホイールのみ

タイヤのバルブ（空気口）とフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押し付けて取り付けます。



- 6 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

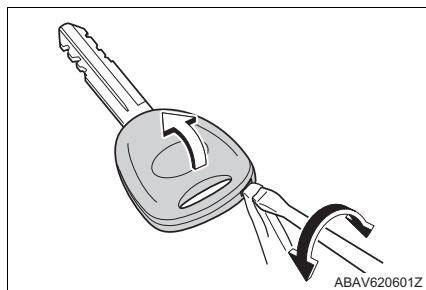
- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- エマージェンシーキー（キーフリーシステム装着車）
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

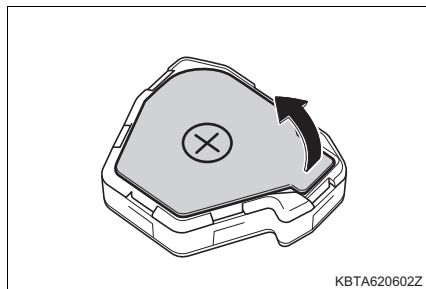
▶キーフリーシステム非装着車

1 カバーを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

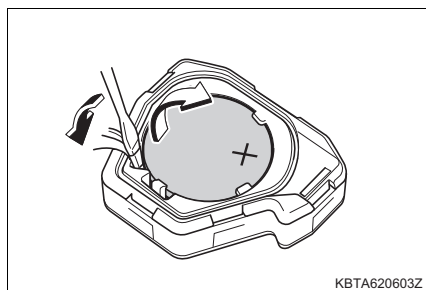


2 モジュール裏側のゴムカバーを外す



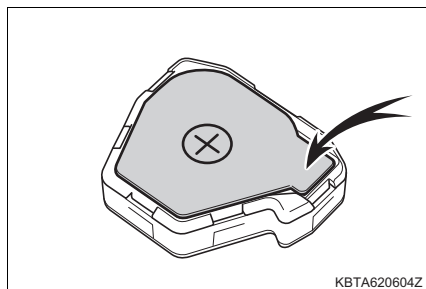
3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



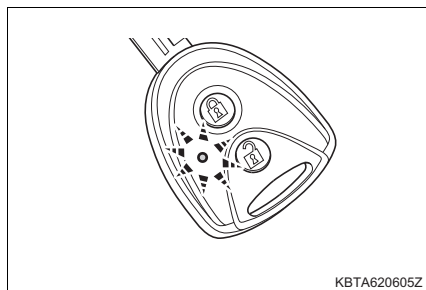
4 モジュールにゴムカバーを取り付ける

ゴムカバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。ゴムカバーが確実ににはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



5 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認してください。

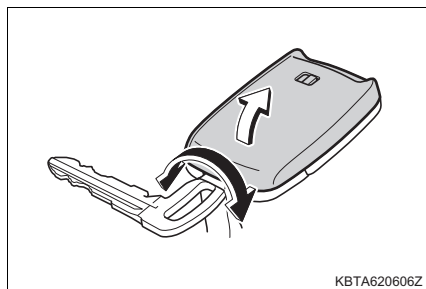


▶ キーフリーシステム装着車

1 エマージェンシーキーを取り出す (→ P. 56)

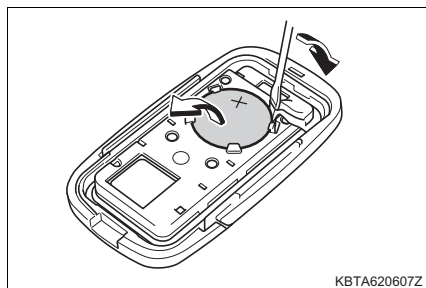
2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。
エマージェンシーキーをしっかりと奥まで差し込んでください。
傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。



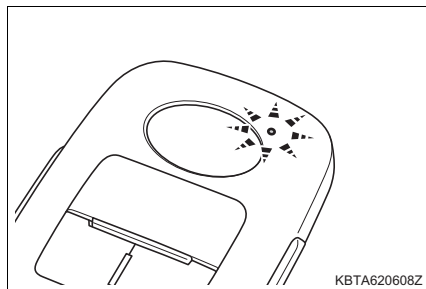
3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。
カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。
新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



⚠ 警告

■ ワイヤレスキー★、または電子カードキー★の電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスキー★、または電子カードキー★にはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

ヒューズの点検・交換

⚠ 警告

■ お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

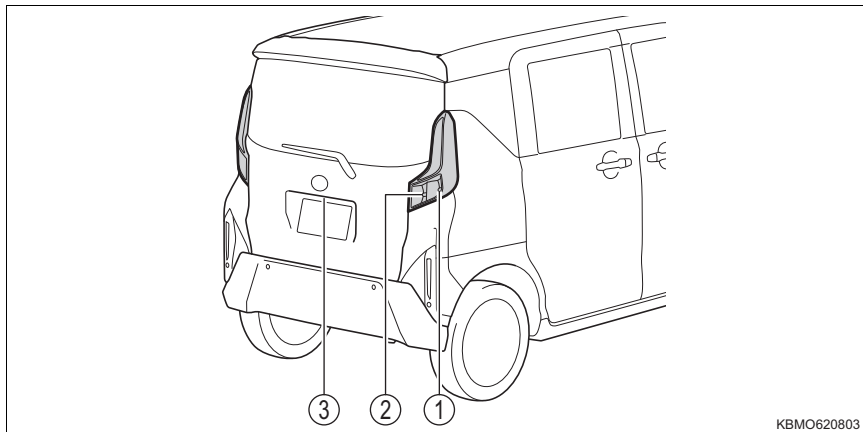
- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 225）

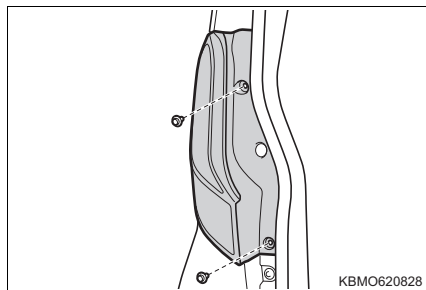


- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

電球交換のしかた

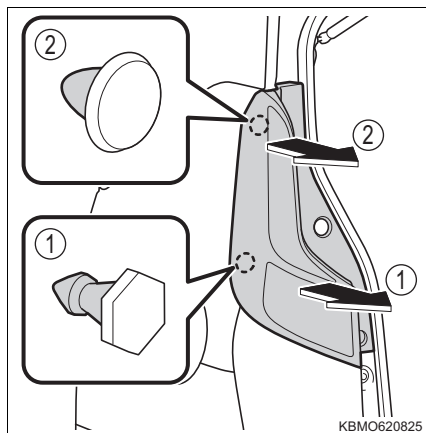
■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

- ① バックドアを開けて、ボルト（2本）を外す



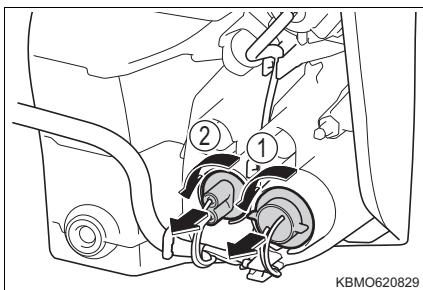
- ② ランプ本体の内部にあるかん合を外す

- ① ランプ本体の下側を持ちながらまっすぐ後方に引き、ピンを外す
- ② ランプ本体をまっすぐ後方に引き、クリップを外す



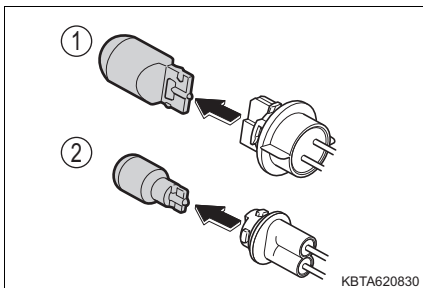
3 ソケットを取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



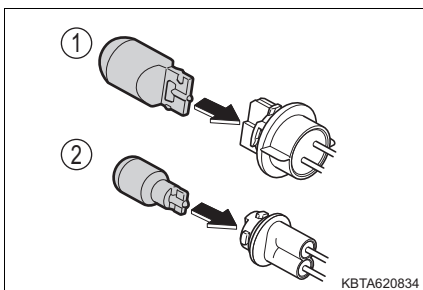
4 電球を取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



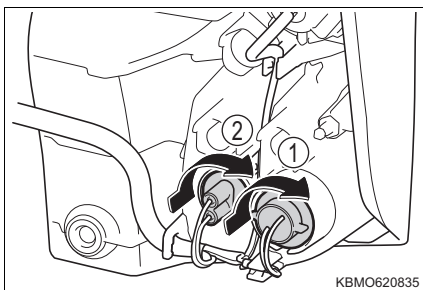
5 電球を交換し取り付ける

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



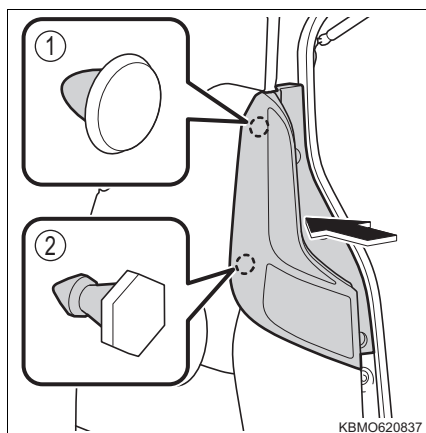
6 ソケットを取り付ける

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

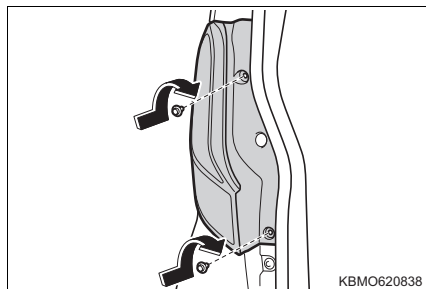


7 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のクリップ (①) とピン (②) を車両側の穴の位置に合わせ、ランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

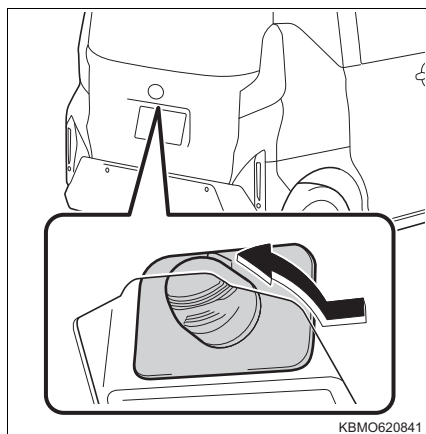


8 ボルト (2 本) を取り付ける

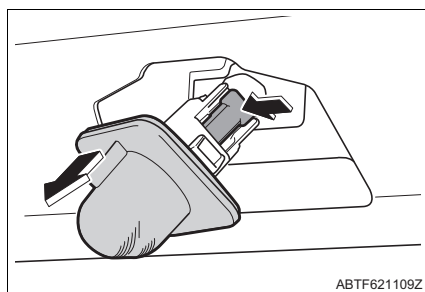


■ 番号灯

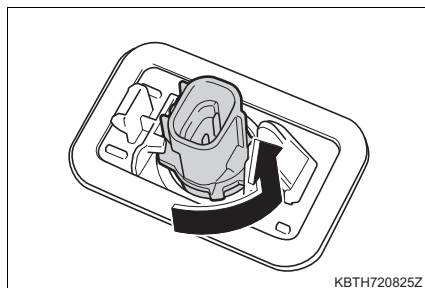
1 ランプ本体をスライドして取り外す



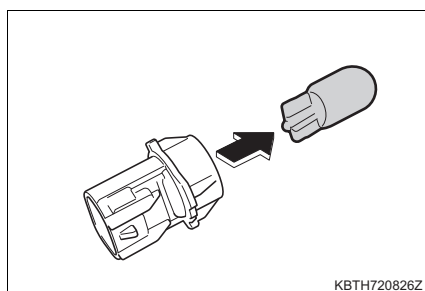
2 ツメを押し、コネクターを取り外す



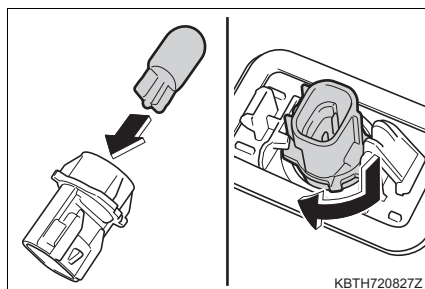
3 ソケットを回して取り外す



4 電球を取り外す

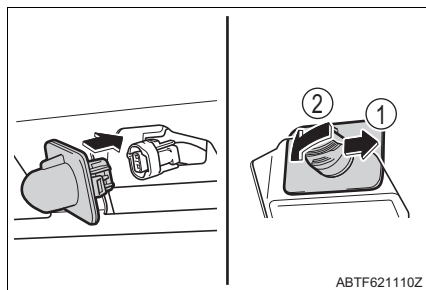


5 新しい電球を取り付け、ソケットを回してレンズに取り付ける



6 コネクターを差し込み、ランプ本体を取り付ける

- ① 車両右側に押し込む
- ② ランプ本体を押す



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- 車幅灯
- フロント方向指示／非常点滅灯
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ
- フロントフォグランプ★
- サイドビューランプ★

📖 知識

■ LED ランプについて

ヘッドランプハイビーム ※1・フロント方向指示／非常点滅灯 ※1・制動灯・ハイマウントストップランプ ※2 は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

※1 ADB 装着車

※2 360° スーパー UV & IR カットガラス装着車

6

お
手
入
れ
の
し
か
た

⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは	174
発炎筒	174
車両を緊急停止するには	175
水没・冠水したときは	176
車中泊が必要なときは	177

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	177
フューエルポンプ シャットオフシステム	178
警告灯がついたときは	178
警告メッセージが 表示されたときは	184
「スマアシ停止」が 表示されたときは	202
パンクしたときは	205
エンジンが かからないときは	214
電子カードキーが 正常に働かないときは (キーフリーシステム 装着車)	215
バッテリーが あがったときは	216
オーバーヒート したときは	218
スタックしたときは	220

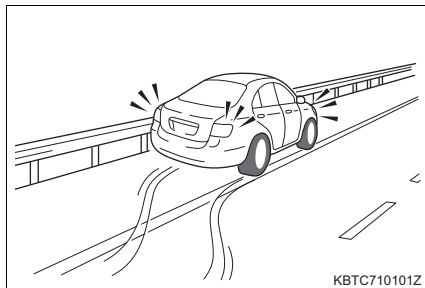
7-1. まず初めに

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

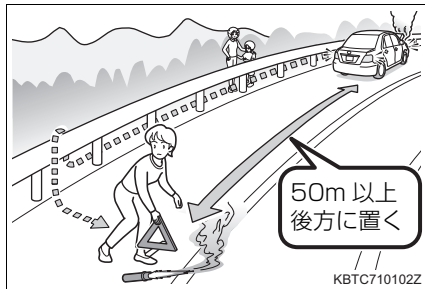
非常点滅灯を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 174）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

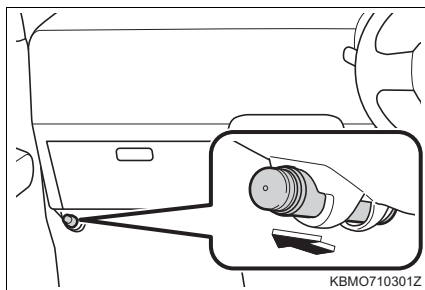


発炎筒

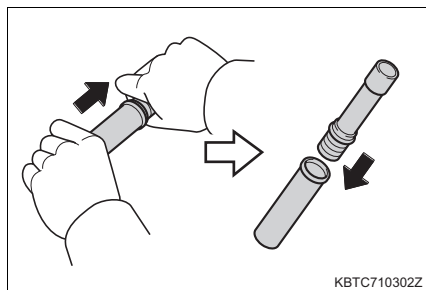
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

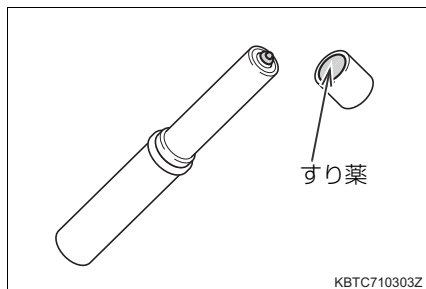
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



- 3 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

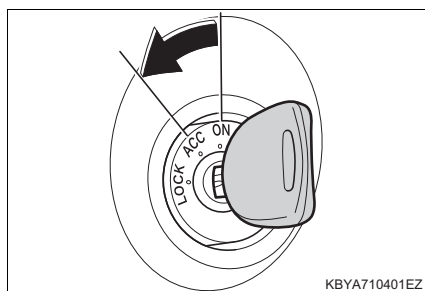
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、お車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 キーフリーシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



KBYA710401EZ

キーフリーシステム装着車：エンジンスイッチを3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する



3秒以上長押しする
または
3回以上連続で押す

KBTA710402Z

- 5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーフリーシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

📖 知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドア★が作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

7-2. 緊急時の対処法

けん引について

⚠ 警告

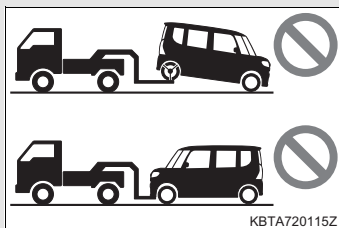
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

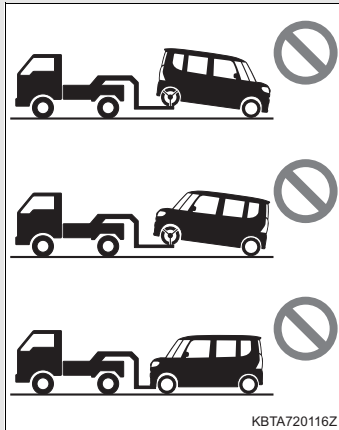
▶ 2WD 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



⚠ 警告

■ 他車にけん引してもらおうときの運転について

- けん引フックやローブに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやローブが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- キーフリーシステム非装着車：エンジンスイッチを“OFF”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにローブをかけるなどのけん引はしないでください。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

⚠ 警告

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 (黄色)	ブレーキ警告灯★ パーキングブレーキの異常 → ただちにダイハツサービス工場へ点検を受けてください。
	充電警告灯★ 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	油圧警告灯★ エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色点滅または点灯)	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常（水温の上昇に伴い、点滅から点灯に変わります。→ P. 218） → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	エンジン警告灯 - エンジン電子制御システムの異常 - 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	CVT 警告灯★ CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 - SRS エアバッグシステムの異常 - シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	オートブレーキホールド作動表示灯★ オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (赤色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※2  (黄色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
	キーフリー警告灯★ キーフリーシステムの異常（キーフリー警告灯が点滅したときは → P. 183） → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (黄色)	AHB / ADB 警告灯 - AHB の異常★ - ADB の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅)  (点滅)  ※3 スマアシ故障	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 マスターウォーニング スマートアシスト故障警告灯★ スマートアシストの一部機能の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)  (点灯) スマアシ停止	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 スマートアシスト停止警告灯★ スマートアシストの機能停止 → 表示された各機能停止コードごとに対処してください。(→ P. 202)
 (黄色)	ACC 警告灯★ ・全車速追従機能付 ACC の異常 ・全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (黄色)	LKC 警告灯★ LKC の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	コーナーセンサー表示灯★ (警告ブザー) マスターウォーニング コーナーセンサーの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	スリップ表示灯 ・ブレーキアシストの異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 (VSC・TRC 作動時は点滅します) ・ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	eco IDLE OFF 表示灯 ・eco IDLE システムの異常 ・スターターの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
※4  (点滅→消灯)	eco IDLE OFF 表示灯 バッテリーの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステム異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。 ドライブスタートコントロール警告灯★ ドライブスタートコントロールの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステムの作動時 → アクセルペダルから足を離す ドライブスタートコントロール警告灯★ ドライブスタートコントロールの作動時 → ただちにアクセルペダルから足を離す
	手放し運転警告灯 (警告ブザー ※5) ハンドルの手放し運転をしている → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
	半ドア警告灯 ※6 ★ (警告ブザー ※7) いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない → 全ドアまたはボンネットを閉める
	燃料残量警告灯 (警告ブザー) 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった → 燃料を補給する
	運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯 ※9 (警告ブザー ※8) 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	後席シートベルト締め忘れ警告灯 ※10、11 (警告ブザー ※12) 後席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
 (点滅)	エンジンオイル劣化警告灯★ エンジンオイルの交換時期が近付いている ※13 → もうすぐオイル交換が必要です。(→ P. 50)
 (点灯)	エンジンオイル劣化警告灯★ エンジンオイルが劣化している ※13 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。(→ P. 50)
 (黄色)	プラスサポート警告灯★ プラスサポートの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	急アクセル時加速抑制警告灯（警告ブザー）★ 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
 (点滅)	パーキングブレーキ表示灯 ※14 ・パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。 ・パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください

- ※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 「スマアシ故障」★の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。
- ※5 手放し運転警告ブザー：
車線逸脱抑制制御機能作動時は、点灯と同時に警告ブザーが鳴ります。
LKC 作動時は、点灯後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。
- ※6 半ドア警告灯：
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。
- ※7 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h（スライドドアは約 3km/h）を超えたときにブザーが鳴ります。
- ※8 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。
- ※9 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※10 インナーミラー上部に表示されます。
- ※11 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
また、約 5km/h 以下で後席シートベルトを外し、スライドドアを開閉すると点灯します。
- ※12 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 20km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でスライドドアを開閉すると、ブザーが停止します。
- ※13 交換時期の詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

※14 パーキングブレーキ表示灯：
電動パーキングブレーキ装着車

ただちに処置してください（マルチインフォメーションディスプレイ装着車かつキーフリーシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
—	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
5 回	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた → 電子カードキーを携帯して乗車する
3 回	 (点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした → 新しい電池に交換する ※2 (→ P. 163)

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。
(→ P. 163)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた → 運転席ドアを閉める
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた → ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する

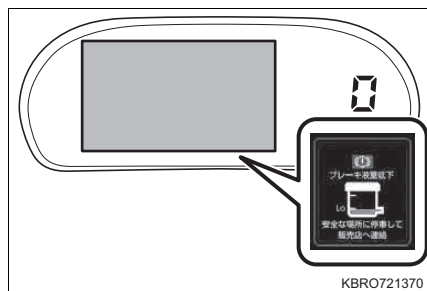
⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いとときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは★

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

メッセージと警告作動

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキ油の不足 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 充電システム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 エンジン油圧低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 	エンジンオイルの圧力異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 販売店へ連絡  (赤色)	エンジン冷却水高温異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 エンジンシステム異常 販売店で点検を 受けてください 	エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
CVT CVTシステム異常 販売店で点検を受けてください 	CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 SRSエアバッグ故障 販売店で点検を受けてください 	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ 作動できません  (黄色)  (点灯または点滅)	パーキングブレーキ異常のため、作動不可 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	パーキングブレーキの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 HOLD (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 HOLD (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (ABS)	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (⚠) (赤色)	EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 パワーステアリング 機能低下 ハンドルが 重くなります  (黄色)	電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
 キーフリー故障 販売店で点検を 受けてください 	キーフリーシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ヘッドランプ光軸異常 販売店で点検を 受けてください 	自動光軸調整システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ヘッドランプ システム故障 販売店で点検を 受けてください  (黄色)	ADB の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 スマートアシスト故障 販売店で点検を受けてください  OFF (点滅)  OFF (点滅) 	スマートアシストの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ACCシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ブレーキを踏んでください  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常★ → ブレーキペダルを踏んで停車し、ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 LKCシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	LKC の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ソナーセンサー故障 販売店で点検を受けてください 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ソナーセンサー機能低下	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。
 VSC故障 販売店で点検を受けてください  (点灯)	ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	eco IDLE システムの異常 スターターの交換時期 バッテリーの交換時期 バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロールの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 アクセルを戻してください	ドライブスタートコントロールの作動時 → ただちにアクセルペダルから足を離す
 ハンドルを保持してください 	手放し運転をしている 車線逸脱抑制制御機能作動時は、メッセージの表示と同時に警告ブザーが鳴ります。 LKC 作動時は、メッセージの表示後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。 → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
 開いています	いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない 開いているドアまたはボンネットが表示されます。 各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h（スライドドアは約 3km/h）を超えたときにはブザーが鳴ります。 → 全ドアまたはボンネットを閉める
 給油してください 	燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった 警告ブザーが鳴ります。 → 燃料を補給する
 シートベルトを装着してください 	運転席、または助手席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 → シートベルトを着用する

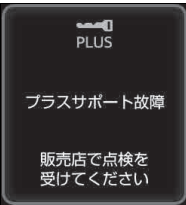
警告メッセージ	警告内容・対処方法
 シートベルトを 装着してください 	後席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに 表示されます。 → シートベルトを着用する
 パーキングブレーキ高温 現在使用できません  (点滅)	パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。 パーキングブレーキの温度が下がると使用できるよう になります。
 パーキングブレーキが ロックされています	パーキングブレーキが解除されていない状態で走行した 規定の車速を超えたときに警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 ドアが開いているため パーキングブレーキ 自動解除できません	運転席のドアが開いている状態でパーキングブレーキのオー トリリースをしようとした → 運転席のドアを閉めてから操作する
 シートベルト未装着のため パーキングブレーキ 自動解除できません	運転席シートベルトを締めないでパーキングブレーキのオー トリリースをしようとした → 運転席シートベルトを締めてから操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキを踏みながら スイッチ操作してください	ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキを解除しようとした → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
 パーキングブレーキが 途中で停止 再度操作してください  (点滅)	パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合：再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してくださいパーキングブレーキをかけようとした場合：再度パーキングブレーキをかけてください
 急坂はブレーキホールド できません ブレーキを 離さないでください	急坂で停車した → ブレーキペダルを確実に踏んで停車し、周囲の安全を確認し、発進させる
 運転席のドアを開けて スイッチを操作してください	運転席のドアが開いている状態でオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席のドアを閉めてからスイッチを操作する
 シートベルトをして スイッチを操作してください	運転席シートベルトを締めないでオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席シートベルトを締めてからスイッチを操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを操作した → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
	オートブレーキホールド機能のオーバーヒート → しばらくオートブレーキホールド機能の使用を控えてください。ブレーキの温度が下がると使用できるようになります。
	ブレーキ保持が間もなく終了する → ブレーキペダルを踏む
 ※1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力の抑制制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
	先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、車両を発進させる
 (点滅) 	車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す
 (点灯) 	ふらつき警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする
	システムが休憩が必要と判断した → 安全な場所に停車し、休憩する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	全車速追従機能付 ACC の接近警報が作動★ 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキペダルを踏んで、適切な車間距離を確保してください。
	コーナーセンサー作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
  (点滅)	VSC が作動 → 特に慎重な運転をする
	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 タイヤが左を向いています  タイヤが右を向いています	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる
 凍結注意	外気温が約 3℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする
 オイル劣化警告 もうすぐ オイル交換が必要です	エンジンオイルの交換時期が近付いている ※3 → もうすぐオイル交換が必要です。(→ P. 53)
 オイル劣化警告 販売店でオイル 交換してください	エンジンオイルが劣化している ※3 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。 (→ P. 53)
 プラスサポート故障 販売店で点検を 受けてください	プラスサポートの異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動★ 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ※1 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ・2次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。
- ※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のエンジン出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。
- ※3 交換時期の詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
5 回	3 回		エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた ・警告ブザーが鳴ります。 → 電子カードキーを携帯して乗車する
—	1 回		車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回	 車内にキーがあります	タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻した → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度タッチ&ゴーロック機能を使用する
—	1 回	 車内にキーがあります	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた → 電子カードキーを携帯して施錠する
—	1 回	 車内にキーがあります	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	—	 ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください	電子カードキーを携帯していない状態で2回エンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
—	—	 バッテリー保護のため自動で電源をOFFにしました	自動でエンジンスイッチが“OFF”になった エンジンスイッチが“ACC”のときは1時間以上、“ON”のときは20分以上経過すると表示されます。 → 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持しバッテリーを充電する
3 回	—	 キーの電池残量が残りわずかです	電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを“OFF”にした ※2 警告ブザーが鳴ります。 → 新しい電池に交換する (→ P. 163)

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチを“OFF”にしようとした → シフトレバーをPにする
—	1 回		エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを“OFF”にして施錠する

※¹ 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 163)

※² 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	  (高速点滅)	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	  (高速点滅)	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席ドアを閉める

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。

機能停止コード一覧

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止 2E	 ブレーキシステム高温 ACCは使用できません  ブレーキシステム高温 LCCは使用できません	ブレーキパッドが高温になった → 原因状態が解消され、再度エンジンスイッチを“ON”にすると復帰
スマアシ 停止 5E	 ソナー汚れ スマートアシストの一部機能を停止します	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 6E	 悪天候 スマートアシストを停止します	フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止! 0E	 ACC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください  LKC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください	ACC★・LKC★が視界不良により 作動条件を満たさなくなった → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止! 1E	 スマアシ一部機能停止 ガラスの汚れや曇りを 取ってください  ACC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください  LKC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください	ステレオカメラが視界不良により前 方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止12E	 カメラ高温 スマートアシストを 停止します  カメラ高温 ACCは使用できません  カメラ高温 LKCは使用できません	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止14E	 初期学習中 スマートアシストを 停止します  初期学習中 ACCは使用できません  初期学習中 LKCは使用できません	スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
		雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
		フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰

※ グレード、オプションなどにより、ディスプレイに表示される文字の配列が異なります。

知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」はシフトレバーが P・R・N 以外のときに表示します。
- 「10E」「11E」はシフトレバーが R 以外のときに表示します。
- 「15E」「16E」はシフトレバーが R のときに表示します。
- 「2E」「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシスト OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトレバーが D・S・B のときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 206)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

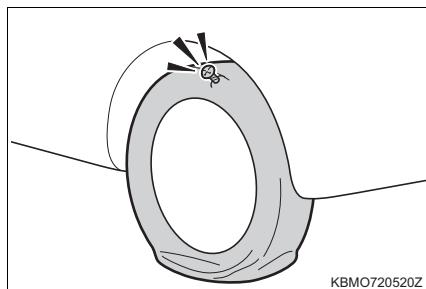
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



KBMO720520Z

知識

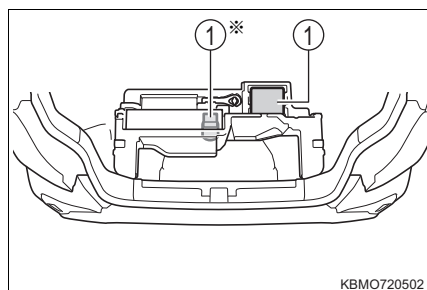
■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

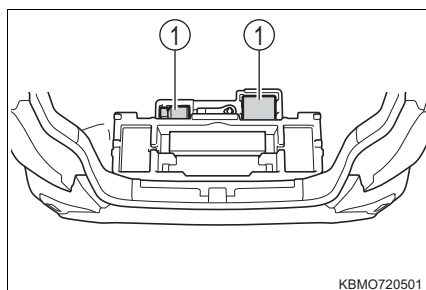
タイヤパンク応急修理セットの搭載位置

▶ 2WD 車



KBMO720502

▶ 4WD 車

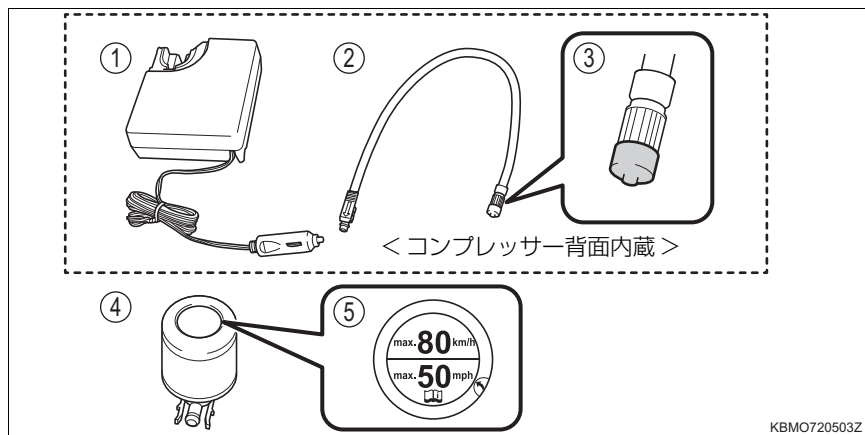


KBMO720501

① タイヤパンク応急修理セット

※ 工具箱★の下に収納されています。

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称

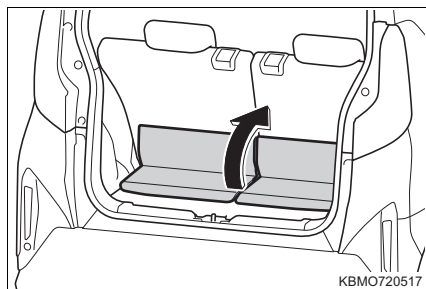


KBMO720503Z

- ① コンプレッサー
- ② ホース
- ③ ホース栓
- ④ パンク修理剤ボトル
- ⑤ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

- ① リヤシートをいちばん前までスライドする
- ② カバーを上げる



KBMO720517

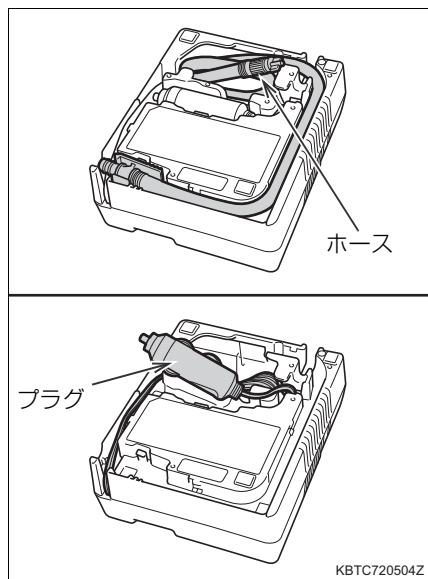
- ③ タイヤパンク応急修理セットを取り出す (→ P. 206)

応急修理するとき

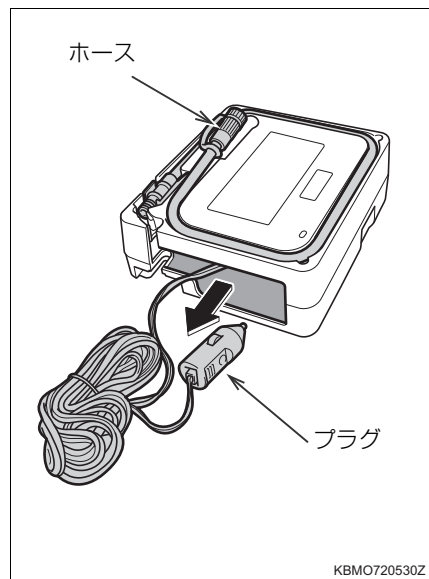
- ① パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません)

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶ タイプ A



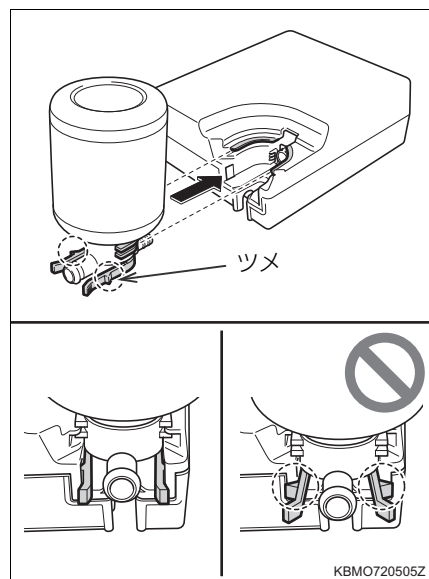
▶ タイプ B



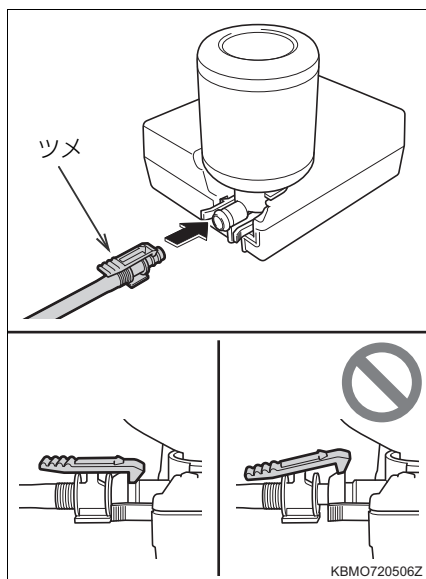
3 パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

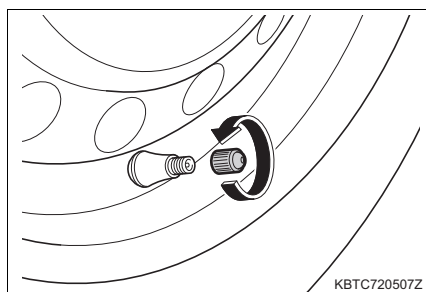
4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



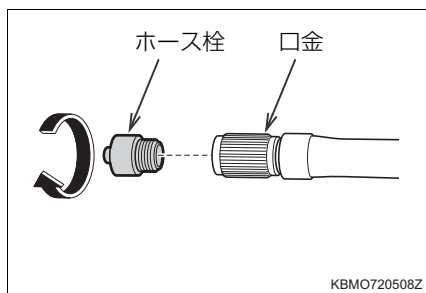
- 5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



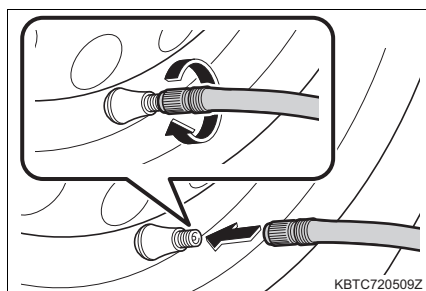
- 6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



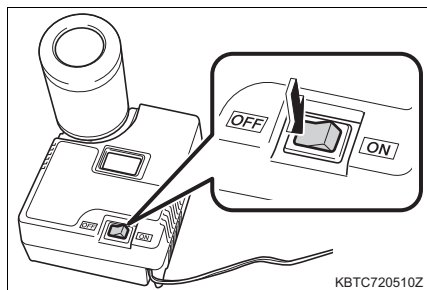
- 7 ホースの口金からホース栓を取り外す



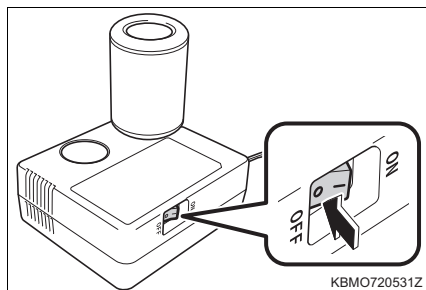
- 8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。



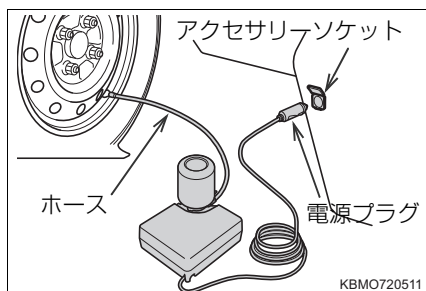
- 9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する
▶タイプ A



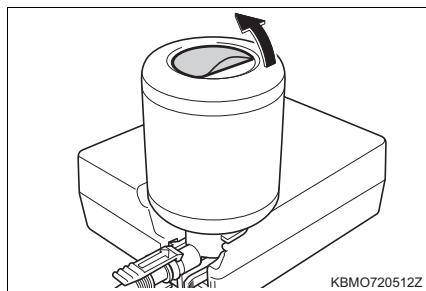
- ▶タイプ B



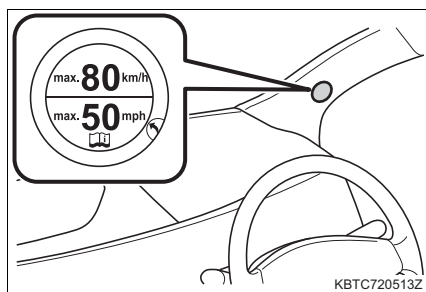
- 10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリソケットに差し込む
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリソケットに差し込んでください。



- 11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 13 タイヤの指定空気圧を確認する
 タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14 エンジンを始動する

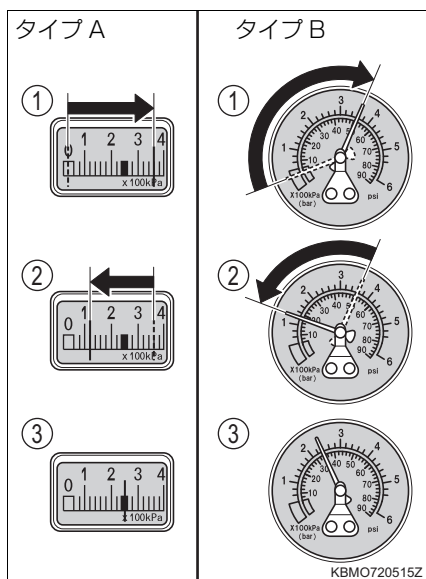
- 15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

- 16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ~ 400kPa まで上がります。
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- ・パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- ・25 分以内に指定空気圧まで上がらない



- 17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

- 18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す
 ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

- 19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

- 21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する
 コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

- 22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する
 急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。

- 23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- ・コンプレッサーを車両に接続する
- ・エンジンを始動する
- ・コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合

手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

- ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する

- ・急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- ・100km 以上の距離を走行しないでください。



知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

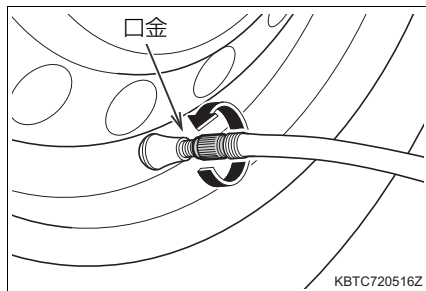
- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■ 空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウィンドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 77, 78）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 77, 78）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモバイザーシステム★に異常がある可能性があります。（→ P. 37）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 216）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない場合（キーフリーシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 215）

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 216）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

電子カードキーが正常に働かないときは（キーフリーシステム装着車）

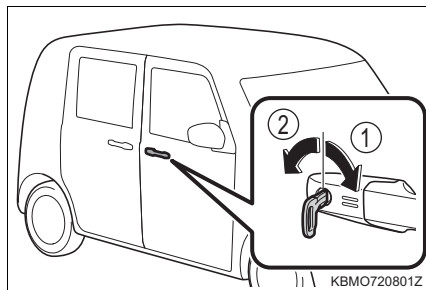
電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー（→ P. 56）を使って次の操作ができます。

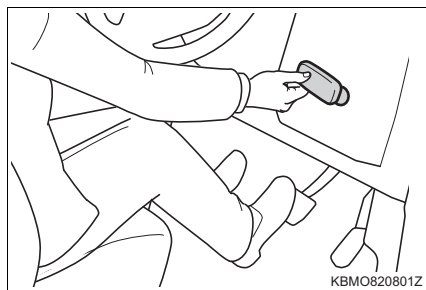
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠

セキュリティアラームがセットされている場合は、セキュリティアラームが作動します。（→ P. 38）



エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む
- 2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - ・ エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
 - ・ セキュリティアラームの作動が停止します。（→ P. 38）



- 3 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 163）

■ エンジンスイッチモードの切り替え

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→ P. 79）

■ 電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

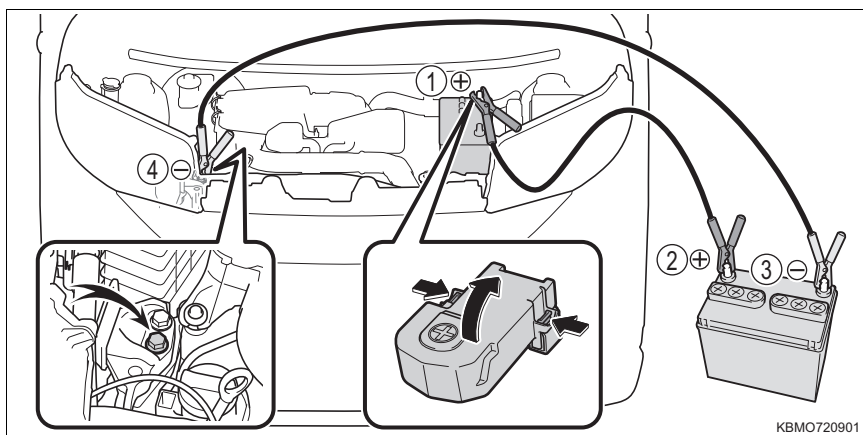
① バッテリーの + 端子のカバーを開ける

ツメを押しながら開けます。

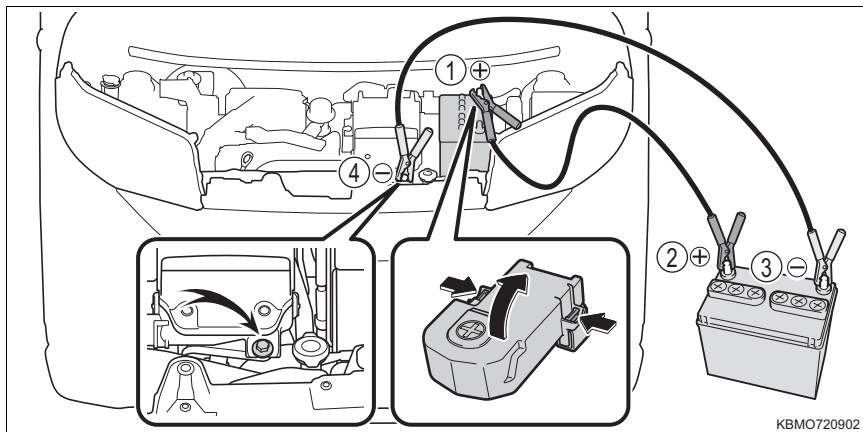
② ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ
- ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。

▶ KF-VE エンジン搭載車



▶ KF-VET エンジン搭載車



③ 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す
- 6 +端子のカバーを閉める

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがりのときや取り外し時など（キーフリーシステム装着車）

- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
 - 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。
- バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
 - 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
 - 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
- また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
 - バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
 - お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯 (→ P. 178) が赤色に点滅または点灯した
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車: 「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ (→ P. 185) が表示された
- エンジンの出力が低下した (スピードが出ないなど)
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

① 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

② 蒸気が出ている場合:

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

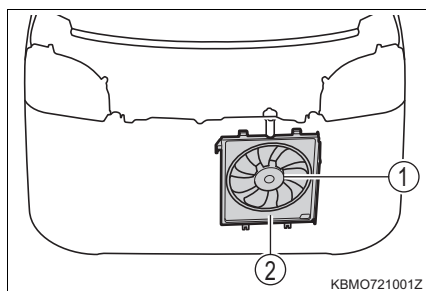
蒸気が出ていない場合:

注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

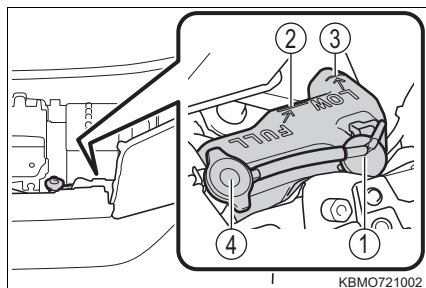
- ① ファン
- ② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。

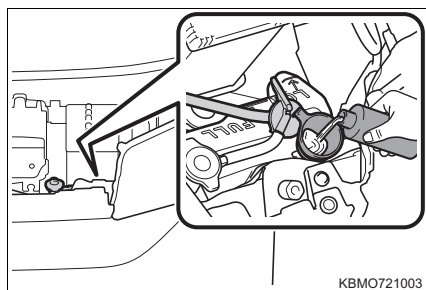


- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する
エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場 で点検を受ける

⚠ 警告

■ 処置を行う前に

水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

⚠ 警告

- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。

⚠ 警告

■ 脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ

(指定燃料・

オイル量など) 222

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	30

エンジンオイル

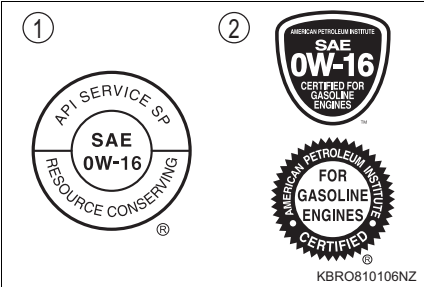
指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値 ※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイル フィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-16 適合：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VE	3.05	3.25
推奨：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VET		

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

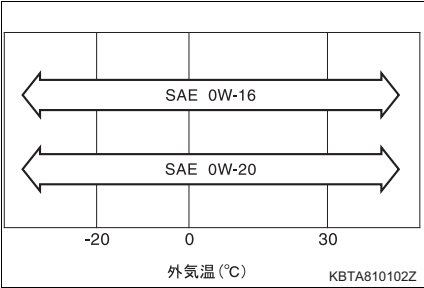
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント（高防錆カタイプ） 凍結保証温度 濃度 50% - 35℃	KF-VE	3.4
	KF-VET	

トランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
アミックス CVT フルード -DFE	ターボ車以外	5.83
	ターボ車	5.75

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.3

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
アミックス ATF D3-SP	0.76

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード (DOT3 相当)

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	92.9 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ非装着車）

項目	基準値（回数）
踏みしろ	5 ～ 7
踏力 245N (25kgf) のときのノッチ ※ 数	

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ”という音）のことです。

■ パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ装着車）

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内に押したとき	消灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内に引いたとき	点灯

※ このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P. 178 を参照してください）

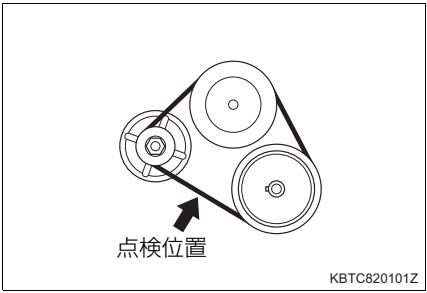
バッテリー

形式
M-42

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
1.5

Vリブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量 	KF-VE	7.9 ~ 9.7
		自動調整式 ※
	KF-VET	自動調整式

押力 98N (10kgf) (冷間時)

※ 全車速追従機能付 ACC 装着車

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
155/65R14 75S	14×4 1/2J	240 (2.4)	240 (2.4)
165/55R15 75V	15×4 1/2J		

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA850S	KF-VE (ガソリン)	FF (前輪駆動)
	KF-VET (ガソリン)	
LA860S	KF-VE (ガソリン)	4WD (4 輪駆動)
	KF-VET (ガソリン)	

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

お問い合わせには、あらかじめ次の事項について確認の上、ご連絡願います。

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00~17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



取扱説明書(抜粋版)は従来に比べ、大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴うCO2排出量の低減が見込まれます。
ダイハツは持続可能でより良い社会の実現にこれからも貢献していきます。

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて
掲載しております。(<https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html>)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。



SPA-230004-J